

令和元年度 行政評価結果報告書



一宮市

令和元年9月

目次

1	一宮市の行政評価	1
2	ねらい	1
3	評価対象	1
4	評価方法	2
5	施策評価の結果	4
6	事業評価の結果	7
7	総合計画に関するワークショップ	7
8	施策評価シート	8
参考	アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について	84

1 一宮市の行政評価

複雑・多様化した市民ニーズや地域特有の課題、社会潮流の変化に対応するために、本市の目指す方向性と取組を施策として明示した「第7次一宮市総合計画」が平成30年度からスタートしました。

本市の行政評価は、この「第7次一宮市総合計画」の進捗管理を行い、計画の目標を達成することを主な目的とし、計画に掲げられた施策および施策に関連する事業の評価を行います。

これらの評価結果に基づき、必要な改善策を検討・実施し、PDCAサイクルを運用していくことで、「第7次一宮市総合計画」を効果的かつ効率的に実現していきます。

2 ねらい

(1) 効果的かつ効率的な市政の追求

限られた財源のもとで、第7次一宮市総合計画を実現するため、業務の手段や進め方を絶えず点検・改善し、効果的かつ効率的な行政経営を行います。

(2) 説明責任の向上

成果をできる限り客観的かつ論理的にわかりやすく検証することにより、市政の透明性を高めます。

(3) 職員の意識改革

職員一人一人が、自分の仕事の目的と成果を常に念頭に置き、コスト意識を持って仕事を行います。

3 評価対象

第7次一宮市総合計画の施策と、施策に関連する事業を対象とします。

(1) 施策評価

第7次一宮市総合計画に掲げられた全35施策を対象とします。

(2) 事業評価

各施策に関連する事業として、平成30年度実施計画に掲載した495事業（延べ数）を対象とします。

4 評価方法

(1) 施策評価

施策の進み具合を測るために設定した「成果指標」と、市民アンケート調査等により市民の体感を問う「市民の体感指標」の実績値を毎年度把握し、その評価結果を組み合わせ「施策の評価結果」とします。

ア 成果指標による評価

前期基本計画における個々の成果指標の進捗状況を、基準値、令和元年度の実績値および目標値の3つの数値から算定し、「A」～「D」の4段階で評価します。なお、基準値、実績値および目標値については次のとおりです。

- 基準値：平成 28 年度中に把握した数値
- 実績値：計画の進捗管理のため、毎年度把握する数値
- 目標値：前期基本計画の最終年度である令和4年度の目標となる数値

施策に複数の成果指標がある場合は、個々の成果指標の評価結果に基づいて、施策の成果指標の評価結果「A」～「D」にまとめます。なお、成果指標が1つの施策は、その指標の評価結果をもって、施策の成果指標の評価とします。

【成果指標による評価結果の内容】

A	目標値に向けて、良好に推移している
B	目標値に向けて、概ね良好に推移している
C	目標値に向けて、低調に推移している
D	目標値に対して、悪化している

イ 市民の体感指標による評価

前期基本計画における市民の体感指標の推移状況を、長期的推移（基準値との比較）と短期的推移（前年度実績値との比較）の関係から「a」～「d」の4段階で評価します。なお、長期的推移と短期的推移の把握においては、アンケート調査による標本誤差を考慮します。

【市民の体感指標による評価結果の内容】

a	基準値および前年度実績値と比較して、良好に推移している
b	基準値および前年度実績値と比較して、概ね良好に推移している
c	基準値および前年度実績値と比較して、低調に推移している
d	基準値および前年度実績値と比較して、悪化している

ウ 施策評価

成果指標の評価結果「A」～「D」と、市民の体感指標の評価結果「a」～「d」を並べて「Aa」（最高評価）～「Dd」（最低評価）の16段階で評価します。さらに、成果指標の評価結果と、市民の体感指標の評価結果に乖離（「Da」または「Ad」）が生じていないかを確認します。

(2) 事業評価

以下の3つの観点に基づいて評価します。

観点	内容
必要性	<ul style="list-style-type: none">・事業の性質からみて、市が関与する必要があるか・社会環境や市民ニーズ等から、事業を実施することが妥当か・施策目的から、事業を実施することが妥当か
有効性	<ul style="list-style-type: none">・事業活動の状況からみて、事業の目標を達成しているか
効率性	<ul style="list-style-type: none">・コストの状況からみて、前年度と比較して、効率的に事業を進めているか

必要性の評価結果は、「○」（必要性あり）、「要検討」のいずれかとなります。有効性の評価結果は、「★★★」（目標を達成）、「★★」（目標を一部未達成）、「★」（改善が必要）の3段階となります。なお、効率性の評価は、令和2年度から実施します。

5 施策評価の結果

(1) 概要

全 35 施策のうち、成果指標の評価結果は、「A：良好」が 13 施策(37.1%)、「B：概ね良好」が 8 施策 (22.9%)、「C：低調」が 9 施策 (25.7%)、「D：悪化」が 5 施策 (14.3%) という結果になりました (図 1 参照)。

また、市民の体感指標の評価結果は、「a：良好」が 8 施策 (22.9%)、「b：概ね良好」が 26 施策 (74.3%)、「c：低調」が 1 施策 (2.8%)、「d：悪化」は無しという結果になりました (図 2 参照)。

施策別の評価結果の一覧は、5 頁「施策評価の結果一覧表」の通りです。

また、各施策の評価結果の詳細については、各施策評価シートに記載しています。

図 1 成果指標

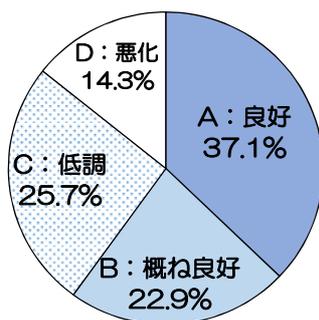
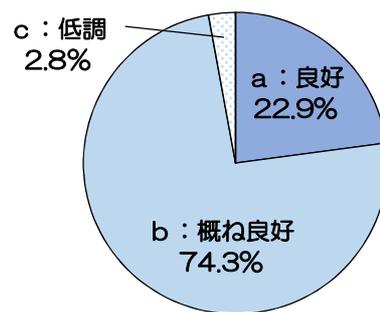


図 2 市民の体感指標



(2) 改善計画等

評価結果に応じて、施策の今後の方向性・改善計画を検討しました。特に、評価結果が「D：悪化」となった 5 つの施策については、成果指標の実績値の早急な改善を目指して、関係課全体で改善計画を検討・推進していきます。

さらに、成果指標の評価結果と、市民の体感指標の評価結果に乖離（「D a」または「A d」）が生じた施策については、その要因を分析しました。

施策の改善計画等は、各施策評価シート「9. 今後の方向性・改善計画」に記載しています。

施策評価の結果一覧表

Plan/ Management	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan 1	1	健康寿命の長いまちづくりに取り組みます	D	b	D b
	2	安心して子育てができる環境をつくります	C	b	C b
	3	適切な医療を受けられる体制を整えます	A	b	A b
	4	高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します	A	b	A b
	5	障害者福祉の充実を図ります	A	b	A b
Plan 2	6	ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します	B	b	B b
	7	地球温暖化防止に取り組みます	D	b	D b
	8	環境教育を推進します	A	b	A b
	9	水と緑を活かしたまちをつくります	D	a	D a
	10	良好な生活環境を確保します	A	b	A b
	11	総合的な住宅対策に取り組みます	B	b	B b
	12	公共交通網の整備を進めます	A	b	A b
Plan 3	13	歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します	D	b	D b
	14	災害に強い社会基盤整備を進めます	B	a	B a
	15	自主防災力の向上を図ります	C	b	C b
	16	火災や救急に対する体制の強化を進めます	A	a	A a
	17	交通事故を減らす取組を進めます	A	b	A b
Plan 4	18	防犯対策を進めます	A	b	A b
	19	既存産業や次世代産業の育成を支援します	A	b	A b
	20	意欲を持って働けるよう就労支援を進めます	C	b	C b
	21	女性の活躍できる環境をつくります	C	c	C c
	22	魅力があり持続的発展性のある農業を支援します	C	b	C b
	23	幹線道路の整備を進めます	B	b	B b

Plan/ Management	施策 番号	施 策 名	成果指標 A~D	市民の 体感指標 a~d	施策評価
Plan5	24	子どもから青少年まで健全に育つ環境をつ くります	B	b	Bb
	25	学校教育施設を整備します	A	a	Aa
	26	特色ある教育活動を実施します	B	b	Bb
	27	する・みる・ささえるスポーツ活動を支援 します	A	a	Aa
	28	歴史・文化に親しめる環境を整えます	C	b	Cb
Manag ement 1	1	子育て世代に選ばれるまちをつくります	C	b	Cb
	2	訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつ くります	D	b	Db
Manag ement 2	3	健全な財政運営に努めます	B	a	Ba
	4	公共施設の適切な維持管理に努めます	B	a	Ba
	5	情報通信技術（ICT）を積極的に利活用し ます	A	b	Ab
	6	適切な情報発信を行います	C	a	Ca
	7	市民との協働を進めます	C	b	Cb

6 事業評価の結果

(1) 概要

必要性について、評価対象となる 495 事業（延べ数）の全てにおいて、必要性ありという結果になりました。

また、有効性については、同 495 事業のうち、事業の目標を達成した事業（「★★★」）が 250 事業（50.5%）、目標を一部達成できなかった事業（「★★」）が 230 事業（46.5%）、目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）が 15 事業（3.0%）という結果になりました。

事業評価の結果は、各施策評価シートの「7. 施策実現に向けて実施した事業（実施計画に掲載した事業）とその評価結果」に記載しています。

(2) 改善計画

目標達成に向けて改善が必要な事業（「★」）について、原則として、次年度の評価結果を改善するための改善計画を検討・推進していきます。

また、事業の目標を達成した事業（「★★★」）、目標を一部達成できなかった事業（「★★」）であっても、施策の評価結果が悪い場合には、成果指標を改善するために必要に応じて改善計画を検討・推進していきます。

事業の改善計画のうち、成果指標の評価結果の改善に効果があるものは、各施策評価シート「9. 今後の方向性・改善計画」に記載しています。

7 総合計画に関するワークショップ

第7次一宮市総合計画の進み具合について、市民同士の話し合いを通じて確認するワークショップを開催しました。

ワークショップでは、各施策について、基準年度（平成 28 年度）と比較して、「○：良くなっている」、「△：変わらない」、「×：悪くなっている」の3段階で評価していただくとともに、施策を良くするために「私たちにできること」を話し合っていました。

ワークショップ参加者による評価結果及び「私たちにできること」は、各施策評価シート「10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見」に記載しています。

8 施策評価シート

(1) 施策評価シートの見方 (次頁と見開き)

各成果指標について、基準値、実績値、目標値、を記載しています。また、各成果指標の状況が視覚的にわかるようグラフを記載しています。

市民の体感指標について、基準値、実績値を記載しています。また、市民の体感指標の状況が視覚的にわかるようグラフを記載しています。

施策に影響を及ぼしていると考えられる社会的な兆しや動向、本市以外の主体の動きや影響について記載しています。

各成果指標と市民の体感指標について、分析を記載しています。

成果指標と体感指標の評価結果が乖離している場合(「Ad」または「Da」の場合)に「あり」と記載しています(乖離の要因や必要に応じた改善計画は「9. 今後の方向性・改善計画」に記載)。

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Plan 1 健やかにいきる

施策 1 健康寿命の長いまちづくりに取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① がん検診受診率 (%)	28.6	27.3	27.1				45.0	-	D
② 国民健康保険の特定保健指導の該当率 (%)	11.2	11.1	11.3				10.9	-	D

①

評価結果

D

悪化

②

評価結果

b

概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
健康に暮らしていると感じている人の割合	74.6	75.7	73.9				b

グラフ

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・がん検診を受けない理由として「受ける時間がないから」、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」「必要などときにはいつでも医療機関に受診できるから」が上位となっている。
- ・死因別の死亡数第1位の悪性新生物は、2018年の全死亡者に占める割合が27.4% (前年度に比べて0.4ポイント低下) で、日本人の3.6人に1人が「がんで死亡している」計算となる。
- ・特定健康診査の受診者のうち、特定保健指導に該当する人の割合が高くなっている。

4. 指標の分析

成果指標	① がん検診の必要性が市民に浸透せず、前年度実績値から0.2ポイント低下している。また、検診を受けるのに見合うだけのメリットを感じていないため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
	② 特定健康診査を毎年受診する人については、翌年度以降の特定保健指導該当率は下降傾向にある。しかしながら、それ以外の人々の特定保健指導該当率が高いため、前年度実績値から0.2ポイント上昇(悪化)し、基準値より高い(悪化した)水準にある。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

5. 施策評価

Db

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	
	d	a
A		
D		Db

成果指標と体感指標の乖離
なし

各成果指標の評価結果を「A」から「D」の4段階で記載しています。なお、「対前年」欄は「-」となります。

各成果指標の評価結果をまとめ、「A」から「D」の4段階で記載しています。

市民の体感指標の評価結果を「a」から「d」の4段階で記載しています。

成果指標と市民の体感指標の評価結果を合せて施策の評価結果を「Aa」から「Dd」の16段階で記載しています。

施策の評価結果を視覚的に明らかにするため、マトリクス上に、評価結果を表示しています。右上が目指す状態、左下が最低の状態です。

(前頁と見開き)

平成30年度実施計画に掲載した事業について、「事業展開の方向性」「事業名」「担当課」を記載しています。

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果					
事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
健康的な生活習慣づくりの推進	健康づくりサポーター事業	健康づくり課	○	★★	-
	健康づくり食生活改善推進事業	健康づくり課	○	★★	-
	健康増進情報提供事業	健康づくり課	○	★★	-
	すこやか健康づくり公園整備事業	公園緑地課	○	★★★	-
成人保健の充実	国民健康保険特定健康診査・特定保健指導事業	保険年金課	○	★	-
	後期高齢者医療健康診査受託事業	保険年金課	○	★★	-
	人間ドック事業	保険年金課	○	★★	-
	がん検診事業	健康づくり課	○	★★	-
	女性の健康診査事業	健康づくり課	○	★★	-
	歯科健康診査事業	健康づくり課	○	★★	-
	成人健康相談事業	健康づくり課	○	★★	-
感染症対策の推進	予防接種事業	健康づくり課	○	★★★★	-
	結核予防事業	健康づくり課	○	★★	-
スポーツによる健康の増進	エコハウス138健康増進事業	施設管理課	○	★★	-
	いちのみやタワーパークマラソン事業	スポーツ課	○	★★	-
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	○	★★	-

実施計画に掲載した事業について、事業評価の結果を記載しています。必要性は「○」または「要検討」の2段階評価、有効性は「★」～「★★★★」の3段階評価です。なお、令和元年度の効率性は、全て「-」となります。

必要性の評価結果が「要検討」(令和元年度は「要検討」の事業なし)の事業について、事業の見直しの内容を記載しています。

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)	
事業名	見直しの内容

総合計画ワークショップの結果として、ワークショップに参加した市民の評価結果(○、△、×の割合)と、施策を良くするために「私たちにできること」の意見を記載しています。

9. 今後の方向性・改善計画
生活習慣病の予防と早期発見・治療に重要なのが、「特定健診・特定保健指導」や「がん検診」などの定期的な受診や、エコハウス138の体育施設や市内公園に設置した健康器具などを活用した定期的な運動などである。健診(検診)の重要性とその内容、そして普段の生活での健康への心がけを、いちのみやタワーパークマラソン・ウォーキング講習会など各課の事業を通じて相互に周知を図るものとし、今まで以上に市民の健康意識を高められるよう推進していく。

施策を推進していくための今後の方向性や改善計画について、施策に関連する主な事業の改善計画を含めて記載しています。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見							
評価結果	市民が考えた「私たちにできること」						
		<table border="1"> <tr> <td>○ 良くなっている</td> <td>28.9%</td> </tr> <tr> <td>△ 変わらない</td> <td>63.2%</td> </tr> <tr> <td>× 悪くなっている</td> <td>7.9%</td> </tr> </table>	○ 良くなっている	28.9%	△ 変わらない	63.2%	× 悪くなっている
○ 良くなっている	28.9%						
△ 変わらない	63.2%						
× 悪くなっている	7.9%						

担当 担当部・課 市民健康部 健康づくり課	関係 関係課 保険年金課、施設管理課、公園緑地課、スポーツ課
---------------------------------	--

(2) 各施策の施策評価シート

全 35 施策の施策評価シートを次頁以降に掲載しています。

Plan 1 健やかにいきる

施策 1 健康寿命の長いまちづくりに取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① がん検診受診率 (%)	28.6	27.3	27.1				45.0	-	D
② 国民健康保険の特定保健指導の該当率 (%)	11.2	11.1	11.3				10.9	-	D

グラフ	①		評価結果 D 悪化
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
健康に暮らしていると感じている人の割合	74.6	75.7	73.9				b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・がん検診を受けない理由として「受ける時間がないから」、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」「必要などときにはいつでも医療機関に受診できるから」が上位となっている。
- ・死因別の死亡数第1位の悪性新生物は、平成30年の全死亡者に占める割合が27.4%（前年度に比べて0.4ポイント低下）で、日本人の3.6人に1人が「がんで死亡している」計算となる。
- ・特定健康診査の受診者のうち、特定保健指導に該当する人の割合が高くなっている。

4. 指標の分析

成果指標	①	がん検診の必要性が市民に浸透せず、前年度実績値から0.2ポイント低下している。また、検診を受けるのに見合うだけのメリットを感じていないため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
	②	特定健康診査を毎年受診する人については、翌年度以降の特定保健指導該当率は下降傾向にある。しかしながら、それ以外の人の特定保健指導該当率が高いため、前年度実績値から0.2ポイント上昇（悪化）し、基準値より高い（悪化した）水準にある。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓				
D			Db	
	d ←	体感指標	→ a	
成果指標と体感指標の乖離なし				

5. 施策評価

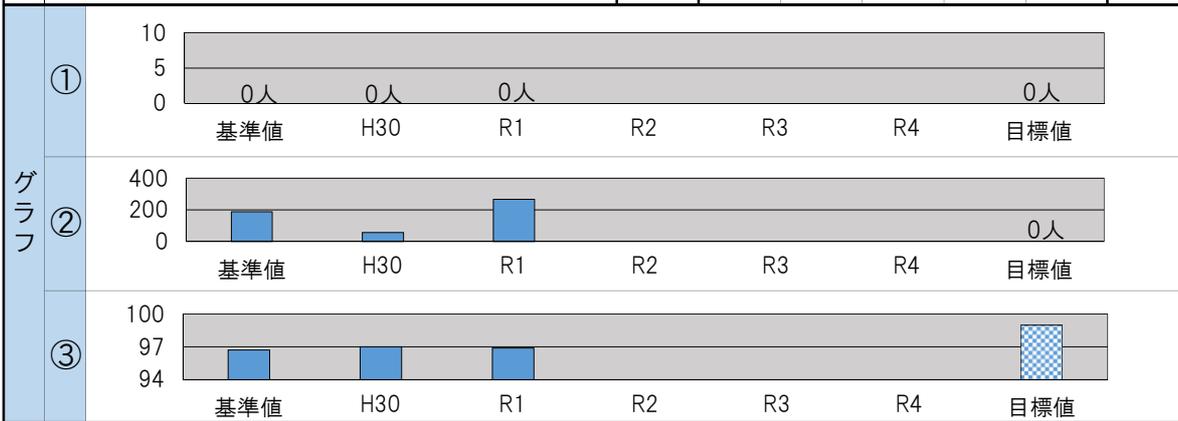
Db

Plan 1 健やかにいきる

施策2 安心して子育てができる環境をつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 待機児童数（保育園）（人）	0	0	0				0	-	A
② 待機児童数（放課後児童クラブ）（人）	189	58	268				0	-	D
③ 乳幼児健康診査の受診率（%）	96.7	97.0	96.9				99.0	-	C



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（%）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
安心して子育てができていると思う人の割合	74.4	80.7	82.9				b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・「子育て支援」や「働き方改革」が国においてもメインテーマになっている。
- ・少子化の進行や核家族化など社会情勢の変化や、働く女性の増加、職業・就労形態の多様化などにより、仕事と子育てを両立できる環境整備の必要性が高まっている。
- ・地域のつながりの希薄化から子育てに孤立感や不安感、負担感を抱く人が増えている。
- ・身近で気軽に相談ができ、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備が求められている。

4. 指標の分析

成果指標	①	保育園の施設整備や小規模保育事業所の開設および認定こども園の開所により、目標値0人を維持している。
	②	対象学年の小学校5、6年への拡大、予定していた施設整備の延期、全体的な利用者の増加により、前年度実績値から210人増加しており、目標値に向けて後退している。
	③	個別通知および広報紙等で広く周知し、各保健センターにおいて集団で実施したものの、前年度実績値からわずかに低下しており、目標値に向けて低調に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑				
成果指標			Cb	
↓				
D				
		d	←	体感指標
			→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価
Cb

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
親と子どもの健康づくり	妊婦健康診査事業	健康づくり課	○	★★	-
	乳幼児健康診査事業	健康づくり課	○	★★★★	-
	不妊治療費補助事業	健康づくり課	○	★★	-
	こんには赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康づくり課	○	★★	-
	母子健康包括支援センター事業	健康づくり課	○	★★	-
	予防接種事業	健康づくり課	○	★★★★	-
安心して楽しい子育ての推進	子ども医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	-
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	健康づくり課	○	★★	-
	子育て支援センター事業	子育て支援課	○	★★	-
	子育て支援サイト・アプリ運用事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	子ども一時預かり事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	児童手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	児童遊園・ちびっ子広場管理事業	子育て支援課	○	★★	-
	児童館管理運営事業	子育て支援課	○	★★	-
	保育料減免事業	保育課	○	★★★★	-
	特別保育事業(一時保育)	保育課	○	★★★★	-
	幼稚園就園奨励費事業	保育課	○	★★★★	-
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★★★	-
	木曾川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★	-
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★★★	-
子育て支援ネットワーク事業	生涯学習課	○	★★	-	
仕事と子育ての両立支援	児童館の整備・充実事業	子育て支援課	○	★★	-
	放課後児童健全育成事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	ファミリー・サポート・センター事業	子育て支援課	○	★★	-
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★★★	-
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	-
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★★	-
	保育事業	保育課	○	★★	-
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★★	-
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★	-
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★★	-
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★★	-
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	-
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★★	-
	小規模保育事業運営補助事業	保育課	○	★★★★	-
	兄弟姉妹同一園入園事業	保育課	○	★★	-
	放課後子ども教室事業	青少年育成課	○	★★	-
子ども・家庭の状況に応じた支援の充実	母子・父子家庭等医療費助成事業	保険年金課	○	★★★★	-
	こんには赤ちゃん訪問・新生児産婦訪問事業	健康づくり課	○	★★	-
	児童扶養手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	一宮市遺児手当支給事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	一宮市遺児一時金支給事業	子育て支援課	○	★★★★	-
	児童虐待防止推進事業	こども家庭相談室	○	★★	-
	子ども悩みごと相談事業	こども家庭相談室	○	★★★★	-
	母子生活支援施設入所相談事業	こども家庭相談室	○	★	-
	高等職業訓練促進給付事業	こども家庭相談室	○	★★★★	-
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

「子育て支援」や「働き方改革」が国のメインテーマとなっていることを鑑み、仕事と子育てを両立できる環境整備を進める。また、子育てに対して孤立感や不安感、負担感を抱く人が1人でも少なくなるよう、気軽に相談ができ、親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備を進めていく。

改善計画としては、待機児童の解消に向けて、引き続き施設整備を計画的に進めていく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	評価	割合	
○	良くなっている	41.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみで子どもを育てる。 ・職場での男性の育児参加について理解を深める。
△	変わらない	58.5%	
×	悪くなっている	0.0%	

主担当部・課

こども部 子育て支援課

関係課

保険年金課、健康づくり課、こども家庭相談室、保育課、青少年育成課、公園緑地課、生涯学習課

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Plan 1 健やかにいきる

施策3 適切な医療を受けられる体制を整えます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 市立病院の医師の充足率 (%)	98.6	99.3	100				100	-	A
② 市立病院の看護職員の充足率 (%)	96.6	99.4	99.7				100	-	A
③ 地域医療機関から市民病院への紹介率 (%)	60.7	73.3	74.4				70.0	-	A

グラフ	①		評価結果 A 良好
	②		
	③		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
自分に合った医療を受けていると思う人の割合	78.6	81.5	80.7				b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・超高齢社会の進展により今後の受診者数の増加が見込まれ、安定的な医療制度の継続と多様な医療ニーズに合わせた良質な医療の提供が求められている。
- ・働き方改革による医師の勤務環境改善の検討が進められている。
- ・国民医療費の増大に対し保険料収入の伸びは見込めず、医療保険財政の運営は厳しい状況が続いている。
- ・病院経営についても、より一層の効率的な運営が求められている。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	医局人事により医師が増員されたため、前年度実績値から0.7ポイント上昇して、目標値を達成している。
	②	看護師求人サイトを活用し人材確保に努めたため、前年度実績値から0.3ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	患者からの電話予約を開始したため、前年度実績値から1.1ポイント上昇しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			Ab	
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Plan 1 健やかにいきる

施策4 高齢者が安心していきいきと暮らせるよう支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 認知症サポーター養成講座の累積受講者数（人）	16,585	23,011	26,484				36,000	-	A
② 地域の高齢者が出かけたくなくなるような通いの場の箇所数（か所）	70	151	199				380	-	A
③ 65歳以上で介護サービスを利用している人の割合（%）	12.9	14.1	14.4				17.0	-	A

グラフ	評価結果
①	A 良好
②	
③	

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（%）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
高齢者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	21.9	23.9	27.5				b 概ね良好

グラフ	評価結果
	b 概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 令和7年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になる見込みのため、新オレンジプランが平成29年度に改定された。
- ・ 平成29年度から全国で介護予防・日常生活支援総合事業が実施されるなど、介護予防の重要性が高まっている。
- ・ 高齢者施策において地域包括ケアシステムを構築するように介護保険制度が改正された。

4. 指標の分析

①	企業を対象に積極的に講座の開催を働きかけたため、前年度実績値から3,473人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
②	通いの場の事業周知を推進したため、前年度実績値から48か所増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
③	介護予防事業の充実により、前年度実績値から0.3ポイントの上昇（悪化）に留めており、目標値以下の維持に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	評価
A	a	Ab
D	d	

成果指標と体感指標の乖離
なし

5. 施策評価

Ab

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
住み慣れた地域で安心して暮らすための仕組みづくり	在宅医療・介護連携推進事業	高年福祉課	○	★★	-
	認知症初期集中支援推進事業	高年福祉課	○	★★★★	-
	認知症地域支援推進員設置事業	高年福祉課	○	★★	-
	認知症サポーター養成講座事業	高年福祉課	○	★★	-
	家族介護用品給付事業	高年福祉課	○	★★	-
	地域包括支援センター機能強化事業	高年福祉課	○	★★	-
	緊急連絡通報システム設置事業	高年福祉課	○	★★	-
	配食サービス事業	高年福祉課	○	★★★★	-
	ねたきり老人等見舞金支給事業	高年福祉課	○	★★	-
	養護老人ホーム・生活支援ハウス事業	高年福祉課	○	★★★★	-
高齢期をいきいきと過ごすための介護予防と生きがいがづくり	あんしん介護予防事業	高年福祉課	○	★★	-
	生活支援体制整備事業	高年福祉課	○	★★★★	-
	就労支援・就労の場の確保事業	高年福祉課	○	★★	-
	高齢者福祉施設運営事業	高年福祉課	○	★★	-
	老人クラブ補助事業	高年福祉課	○	★★	-
	高齢者無料入浴事業	高年福祉課	○	★★	-
	敬老事業	高年福祉課	○	★★	-
介護ニーズに対応するための介護保険事業の充実と適正化	適切な認定調査実施体制の確保事業	介護保険課	○	★★	-
	介護基盤整備事業	介護保険課	○	★★★★	-
	介護サービス事業者との連携事業	介護保険課	○	★★	-
	介護給付費適正化事業	介護保険課	○	★★	-
	低所得者に対する市独自減免事業	介護保険課	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

現状では目標値に向けて良好に推移しているため、現行の事業を継続する。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	△ 変わらない	
	20.0%	67.5%	・認知症サポーターの講座に参加する。また、そういった講座等の情報を意識的に入手する。
	12.5%		

主担当部・課
福祉部 高年福祉課

関係課
介護保険課

Plan 1 健やかにいきる

施策5 障害者福祉の充実を図ります

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① グループホームで生活している障害者の人数(人)	262	313	334				430	-	A
② 民間企業等へ就職した障害者の人数(人)	44	43	56				50	-	A
③ 療育支援を受けている障害児の人数(人)	1,296	1,741	1,979				1,550	-	A

グラフ	評価結果
①	A 良好
②	
③	

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
障害者への福祉サービスが整っていると思う人の割合	28.7	34.8	33.2				b 概ね良好

グラフ	評価結果
	b 概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・施設入所者および長期入院者等の地域移行が推進されており、その受け皿としてグループホームは必要な社会資源となっている。
- ・事業主に対して、法定雇用率が平成30年度から引き上げられており、障害者雇用が推進されている。
- ・障害児の多様なニーズに的確に応えるため、サービスの必要見込み量等を定める障害児福祉計画の策定が義務化された。

4. 指標の分析

成果指標	①	建設補助制度を活用する等、グループホームが増えているため、前年度実績値から21人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	就労移行支援事業の利用は減少傾向にあるが、障害者雇用義務の対象に精神障害者が加えられたことなどを受けて、前年度実績値から13人増加しており、目標値を達成している。
	③	放課後デイサービス事業所等の社会資源が増えているため、前年度実績値から683人増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	評価
A		Ab
B		
C		
D		

成果指標と体感指標の乖離
なし

5. 施策評価

Ab

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
差別の解消及び権利擁護の推進	障害者虐待防止センター事業	福祉課	○	★★★	-
	啓発事業	福祉課	○	★★★	-
	成年後見制度利用支援事業	福祉課	○	★★★	-
地域生活支援の充実	障害者医療費助成事業	保険年金課	○	★★★	-
	計画相談支援事業	福祉課	○	★★	-
	共同生活援助(グループホーム)事業	福祉課	○	★★	-
	施設入所支援事業	福祉課	○	★★★	-
	共同生活援助支援事業	福祉課	○	★★	-
	いずみ福祉園等指定管理事業	福祉課	○	★★	-
	日常生活用具給付事業	福祉課	○	★★	-
	補装具費給付事業	福祉課	○	★★	-
	移動入浴委託事業	福祉課	○	★★★	-
	配食サービス事業	福祉課	○	★★	-
	重度訪問介護事業	福祉課	○	★★★	-
	居宅介護事業	福祉課	○	★★	-
	同行援護事業	福祉課	○	★★	-
	行動援護事業	福祉課	○	★★	-
	移動支援事業	福祉課	○	★★	-
	福祉タクシー料金助成事業	福祉課	○	★★	-
	短期入所事業	福祉課	○	★★	-
	日中一時支援事業	福祉課	○	★★	-
	相談支援事業	福祉課	○	★★★	-
	社会福祉施設建設補助事業	福祉課	○	★★	-
	生活介護事業	福祉課	○	★★	-
	自立訓練事業(生活訓練)	福祉課	○	★★	-
	療養介護事業	福祉課	○	★★	-
	地域活動支援センター事業	福祉課	○	★★	-
	障害者手当給付事業	福祉課	○	★★★	-
	障害者自立支援医療(更生医療)給付事業	福祉課	○	★★	-
	高額障害福祉サービス費給付事業	福祉課	○	★★★	-
	障害者通所交通費給付事業	福祉課	○	★★	-
自立生活援助事業	福祉課	○	★	-	
障害者グループホーム建設補助事業	福祉課	○	★★★	-	
視覚障害者歩行訓練事業	福祉課	○	★★★	-	
雇用・就労の推進	就労移行支援事業	福祉課	○	★★	-
	就労継続支援事業	福祉課	○	★★	-
	就労定着支援事業	福祉課	○	★★	-
療育・保育環境の充実	障害児相談支援事業	福祉課	○	★★	-
	心身障害児母子通園事業	福祉課	○	★★	-
	児童発達支援事業	福祉課	○	★★★	-
	放課後等デイサービス事業	福祉課	○	★★	-
	保育所等訪問支援事業	福祉課	○	★★★	-
	療育サポート事業	福祉課	○	★★★	-
	就学前児童発達支援事業等負担金給付事業	福祉課	○	★★★	-
	居宅訪問型児童発達支援事業	福祉課	○	★	-
	児童発達支援センター事業	いずみ学園	○	★★	-
	心身障害児母子通園事業	いずみ学園	○	★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

成果指標だけでなく市民の体感指標についても上昇するよう、引き続き各事業を推進する。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	17.5%	
△ 変わらない	62.5%		
× 悪くなっている	20.0%		

主担当部・課

福祉部 福祉課

関係課

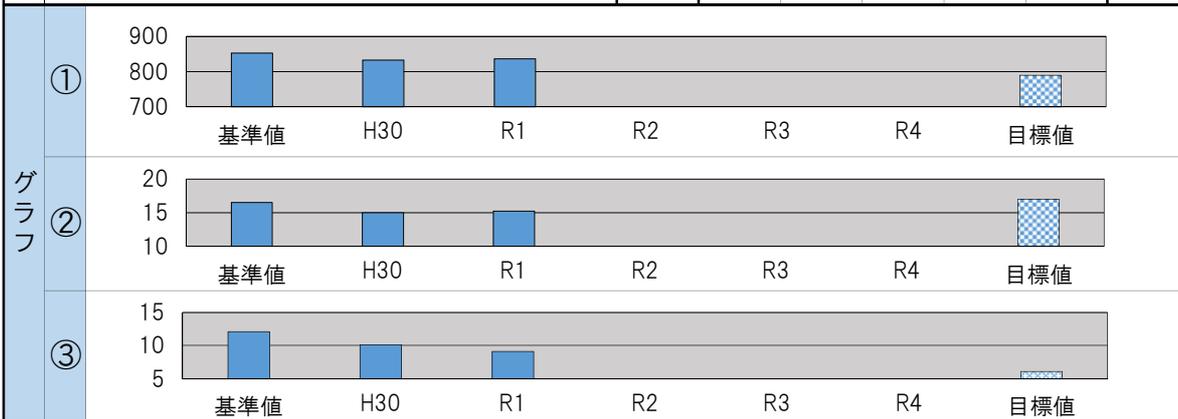
保険年金課、保育課、いずみ学園

Plan2 快適にくらす

施策6 ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します

1. 成果指標による評価

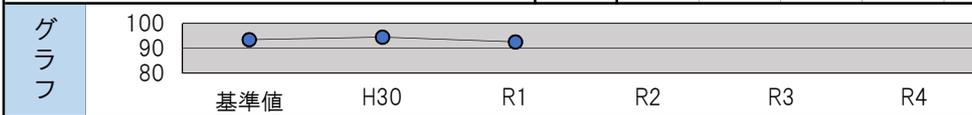
成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 市民一人あたり一日分のごみの排出量 (g)	853	833	837				790	-	B
② ごみのリサイクル率 (%)	16.5	15.0	15.2				17.0	-	D
③ 最終処分場の利用可能残余年数 (年.か月)	12.11	10.11	9.11				6.11	-	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う人の割合	93.4	94.5	92.6				b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・環境破壊による地球温暖化や資源枯渇、資材高騰が話題となり、資源に対する関心は高まっている。
- ・国では、資源の効率的な利用やリサイクルを進めることで環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成することを目指している。
- ・家庭では、ごみと資源の分別に対する意識が定着し、リサイクルの重要性が認知されており、また、企業による包装・梱包容器の減量化や民間によるリサイクル活動が盛んになっている。

4. 指標の分析

成果指標	①	排出されるごみと資源の総量のうちごみの量が増加したため、前年度実績値から4g増加(悪化)している。生活スタイルの変化、経済情勢により左右される傾向があるが、目標値に向けては概ね良好に推移している。
	②	収集資源(容プラ、ペットボトル、空き缶・金属類)の回収量が前年度より増加したため、リサイクル率は前年度実績値から0.2ポイント増加している。しかし、町内回収資源回収量は年々減少傾向にあるため、依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
	③	効果的なごみ処理と資源化を進めるとともに、焼却残渣を民間最終処分場等へ搬出することにより、基準値から3年の減少に留めており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓			Bb	
D				
		d	← 体感指標 →	a

成果指標と体感指標の乖離
なし

5. 施策評価
Bb

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
ごみの排出マナー・減量意識の向上	ごみ減量啓発事業	清掃対策課	○	★★★	—
	生ごみ処理機等購入補助事業	清掃対策課	○	★★★	—
	ごみ減量モニター事業	清掃対策課	○	★★★	—
ごみの適正かつ効率的な処理	可燃ごみ収集事業	清掃対策課	○	★★★	—
	不燃ごみ収集事業	清掃対策課	○	★★★	—
	粗大ごみ収集事業	清掃対策課	○	★★★	—
	焼却施設運転管理事業	施設管理課	○	★★★	—
	リサイクルセンター運転管理事業	施設管理課	○	★★★	—
	最終処分場運転管理事業	施設管理課	○	★★★	—
	最終処分場延命化事業	施設管理課	○	★★★	—
資源のリサイクルの推進	資源回収事業	清掃対策課	○	★★★	—
	空き缶・金属類リサイクル事業	清掃対策課	○	★★★	—
	プラスチック製容器包装リサイクル事業	清掃対策課	○	★★★	—
	ペットボトルリサイクル事業	清掃対策課	○	★★	—
	小型家電リサイクル事業	清掃対策課	○	★★★	—

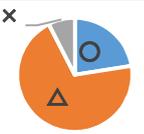
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

冊子「ごみと資源の分け方・出し方辞典」や、ウェブアプリ「一宮市ゴミチェッカー」、フェイスブック「ピンちゃん・カンちゃん」、広報等の媒体を活用して、ごみと資源の分別の啓発活動を更に進め、ごみの減量、リサイクル率の向上につなげていきたい。また、最終処分場の利用可能残余年数については、目標値に向けて良好に推移しているため、今後も現在のごみ処理等を継続していく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	22.5%	
△ 変わらない	70.0%	・ゴミを減らすために、マイバッグを持つ、無駄なものを買わないなど身近なところから意識する。 ・リサイクル意識を高く持つ。	
× 悪くなっている	7.5%		

主担当部・課
環境部 清掃対策課

関係課
施設管理課

Plan2 快適にくらす

施策7 地球温暖化防止に取り組みます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）（t）	2,294,148	2,357,101	2,311,559				2,065,666	-	D

グラフ								評価結果
								D 悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合	59.5	61.6	61.8				b 概ね良好

グラフ						

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・ 京都議定書に代わる令和2年度以降の新たな国際枠組みであるパリ協定の採択・発効や、わが国における令和12年度までの温室効果ガス排出量削減目標が設定された。
 ・ 国内では、平成27年度の温室効果ガス排出量は約12億2700万トンで、2005年度（京都議定書発効年）と比較すると6.4%減少している。部門別では、産業部門が10.0%、運輸部門は11.0%、家庭部門では0.2%減少している。

4. 指標の分析

成果指標	製造業および民生家庭、廃棄物分野において減少したため、前年度実績値から45,542t減少（改善）しているものの、全体としては、依然として基準値より高い（悪化した）水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A					
↑					
成果指標					
↓					
D			Db		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離なし					

5. 施策評価

Db

Plan2 快適にくらす

施策8 環境教育を推進します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 環境に関する講座などの開催回数(回)	57	68	72				80	-	A
② エコスクール運動参加者の環境意識向上度(%)	88.2	88.8	90.1				90.0	-	A

グラフ	①		評価結果 A 良好
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
	H30	R1	R2	R3	R4		
環境に対して責任や役割を意識している人の割合	51.1	54.0	53.6				b 概ね良好

グラフ		5. 施策評価 Ab
-----	--	----------------------

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 世代ごとに特色を持たせた環境学習等の機会の拡充および連携・協働の推進が求められている。
- ・ 発達段階に応じた教育や学習機会を提供し、低炭素型の思考を醸成する必要がある。
- ・ 推進員等の資質向上と活動の場を創出し、指導者や専門的な技術、知識を持つ人材を育成する必要がある。

4. 指標の分析

成果指標	①	世代ごとに向けた講座を実施したため、前年度実績値から4回増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	以前より「地球にやさしい行動」をするようになった児童生徒が増えたため、前年度実績値から1.3ポイント増加しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D		Ab	
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離			なし

Plan2 快適にくらす

施策9 水と緑を活かしたまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 都市公園面積 (ha)	228.40	229.49	229.84				238.04	-	C
② 水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数 (人)	1,111,700	976,000	984,800				1,167,200	-	D

グラフ	①		評価結果 D 悪化
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合	30.3	34.7	36.2				a 良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・人口減少社会の到来を見据え、昨年度に策定された愛知県広域緑地計画において、公園整備の量だけでなく緑の質を高めていくことが盛り込まれた。
 ・また、昨年は夏の長期間にわたる酷暑と行楽シーズンに大雨が集中したことにより、公園利用状況に多大な影響を与えた。

5. 施策評価

Da

4. 指標の分析

成果指標	①	限られた財源の中での整備のため、前年度実績値から0.35haの増加に留まり目標値に向けて低調に推移している。
	②	前年度実績値から約8,800人の増加はしているものの、目標値には程遠く、依然として基準値さえも下回っている。
市民の体感指標		基準値との比較において、5.9ポイント上まわったが、前年度との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
				Da	
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離あり					

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
水と緑のオープンスペースの整備推進と活用	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★★	—
	木曽川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★★	—
	すこやか健康づくり公園整備事業	公園緑地課	○	★★★	—
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★	—
	公園施設長寿命化対策事業	公園緑地課	○	★★★	—
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★★	—
	ツインアーチ138維持管理事業	公園緑地課	○	★★	—
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	—
	県営農業農村整備事業(遊歩道)	治水課	○	★★★	—
民有地の緑化推進	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	—
	入学記念樹配布事業	公園緑地課	○	★★	—
	民有地緑化推進補助事業	公園緑地課	○	★★★	—
潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進	都市公園・街路樹維持管理事業	公園緑地課	○	★★	—
	市民参加による公園管理事業	公園緑地課	○	★★	—
	市民ボランティアによる公園花壇管理事業	公園緑地課	○	★★	—
	花いっぱい運動事業	公園緑地課	○	★★	—
	ホタルも生息できる環境創出事業	公園緑地課	○	★★	—
	県営農業農村整備事業(農業用水管)	治水課	○	★	—
	農業農村多面的機能支払補助事業	治水課	○	★★★	—
	北方地区基盤整備事業	治水課	○	★★★	—
	単独土地改良事業	治水課	○	★★★	—

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

体感指標は基準値を上回っていることから、都市公園面積の拡大とあわせて、緑の質を高めたり公園の利活用の推進を図ったりしていくことが重要と考える。今後は行政主導ではなく、ミズベリング138事業やPark-PFI、民有地の緑化推進等、市民、企業と連携し水と緑を活かしたまちづくりを目指していく。

<成果指標と体感指標の乖離について>

市民ニーズの多様化から民間主催のイベントも多数実施されているため、市が把握する成果指標と市民の体感指標に差が生じたのではないかと考えられる。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	38.5%	
△ 変わらない	61.5%	・水と緑にふれられるイベントに参加し、それを発信する。 ・今ある自然を守るためにも川や公園を掃除するボランティアに参加する。	
× 悪くなっている	0.0%		

主担当部・課
まちづくり部 公園緑地課

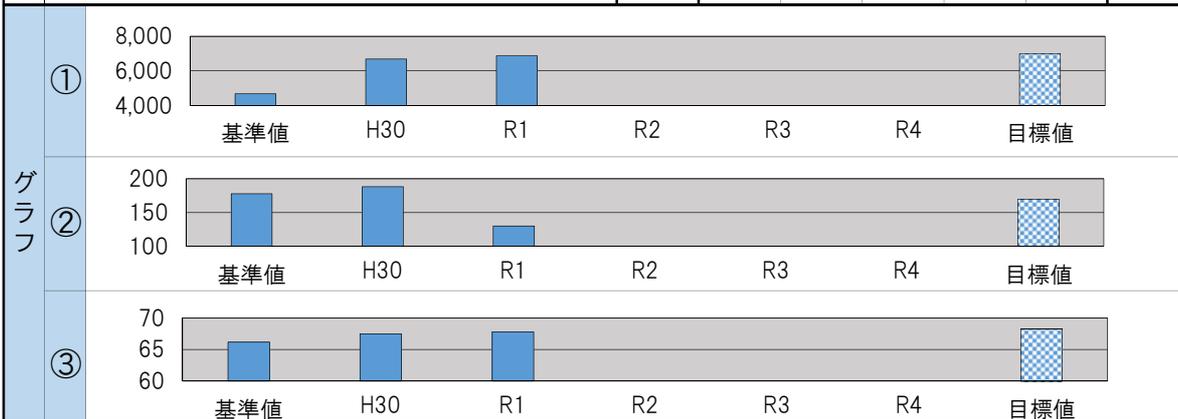
関係課
農業振興課、治水課

Plan2 快適にくらす

施策10 良好な生活環境を確保します

1. 成果指標による評価

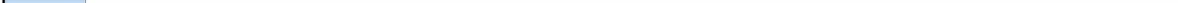
成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数(人)	4,687	6,693	6,869				7,000	-	A
② 典型7公害の苦情件数(件)	178	188	130				170	-	A
③ 下水道普及率(%)	66.2	67.5	67.8				68.3	-	A



評価結果
A
良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
生活環境が良好であると思う人の割合	65.6	67.4	67.8				b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 町内会や学校が主体となって通学路や生活道路周辺の清掃活動が定期的実施されるなど、環境美化に関する市民の意識が高まっている。
- ・ 騒音や悪臭の感じ方は、個々の感覚によるところが大きいため、案件によっては、行政指導による規制基準値内のレベルのものでも苦情として寄せられる。
- ・ 近隣住民からの通報をもとに行政指導を実施しても、対策が講じられるまでに時間を要する。

4. 指標の分析

成果指標	①	市民の環境美化の意識が向上したため、前年度実績値から176人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	苦情に対して適切な対応をしているため、前年度実績値から58件減少(改善)しており、目標値を達成している。
	③	汚水管の整備が進捗したため、前年度実績値から0.3ポイント増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A		Ab	
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d	← 体感指標 →	a

主担当部・課
環境部 環境保全課

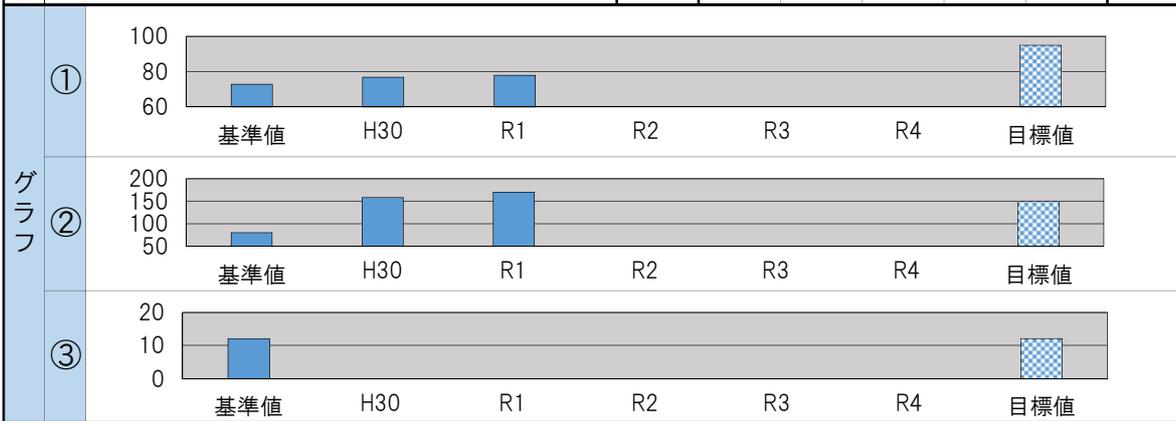
5. 施策評価
Ab

Plan2 快適にくらす

施策11 総合的な住宅対策に取り組みます

1. 成果指標による評価

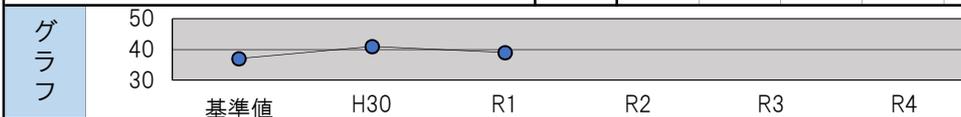
成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 住宅の耐震化率 (%)	72.8	76.8	77.9				95.0	-	B
② 木造住宅解体工事費の補助件数 (件)	80	158	170				150	-	A
③ 空き家率 (%)	12.1	-	-				12.1	-	-



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
住宅が耐震や老朽化の観点から安心であると思う人の割合	37.1	41.0	39.0				b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・近年、全国各地で大規模な地震が発生し、この地方においても巨大地震発生が危惧されており、被害想定から死者数および経済被害等を減少させるため、建物の耐震化が、緊急かつ優先的に取り組む重要な課題となっている。
・全国的に空き家の増加が社会問題となっており、本市においても年々空き家に関する相談・苦情が増えている。

4. 指標の分析

成果指標	①	旧基準で建てられた木造住宅の耐震改修や解体が進んでいるため、前年度実績値から1.1ポイント増加しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
	②	広報や町内回覧等の周知により、補助を利用する市民が増えたため、実績値が目標値を上回っている。
	③	本年度の実績値なし(5年ごとの調査)。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓			Bb	
D				
		d		a
		← 体感指標 →		

成果指標と体感指標の乖離
なし

5. 施策評価

Bb

Plan2 快適にくらす

施策12 公共交通網の整備を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 市内バスの年間利用者数（千人）	4,816	4,930	4,979				4,900	-	A

グラフ								評価結果
								A 良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	35.0	37.8	36.2				b 概ね良好

グラフ						

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・高齢化の進展や免許返納者の増加などにより、公共交通の必要性が高まっている。
- ・バス乗務員の確保が難しくなっており、経費の増大や事業規模の縮小も予測される。

4. 指標の分析

成果指標	乗務員不足のため運行便数が減少したものの、前年度実績値から49千人増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			Ab	
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Ab

Plan 2 快適にくらす

施策13 歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 歩行者・自転車関連の交通事故件数（件）	730	790	742				610	-	D

グラフ								評価結果
								D 悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合	28.3	29.5	32.1				b 概ね良好

グラフ						

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・自転車は、日常生活における身近な移動手段やサイクリング等のレジャー手段として多くの人に利用されている。
 ・近年では、健康や環境への意識の高まりを背景に自転車のニーズが高まっている。一方で交通事故が減少傾向にあるなか、自転車対歩行者の交通事故は横ばいの状況であり、自転車の通行ルールの徹底を図るため、道路交通法の改正により、自転車の歩道通行可能要件の明確化や自転車運転による危険防止のための講習に関する規定等が整備された。また、各地の自治体で、自転車による交通事故の減少と、自転車事故による被害者の保護等を目的として、自転車条例が制定されつつある。
 ・登下校時における児童の交通事故防止等の安全対策が求められている。

4. 指標の分析

成果指標	一宮市の交通事故の特徴としては、①自転車事故と②交差点での出会い頭の事故が多いことである。（参考：平成30年中の市内全体の事故件数に対する①、②の割合は①24%、②54%であり、県内平均と比べるとそれぞれ①7%、②12%多い。）よって、今後自転車や交差点での事故対策を検討していく必要がある。また、現状は一宮警察署の自転車利用者への取締り強化、市、関係機関と連携して行った広報啓発活動、人優先の安全安心な歩行空間の整備等により、事故件数は前年度より48件減少したと推測されるが、依然基準値の730件（H28）、目標値の610件（R4）を上回った状況で推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓				
D			Db	
	d ←	体感指標	→ a	
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Db

Plan 3 安全・安心を高める

施策14 災害に強い社会基盤整備を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 基幹管路の耐震化率 (%)	27.4	29.7	30.2				31.3	-	A
② 主要橋梁の耐震化率 (%)	9.3	9.3	9.3				20.9	-	C
③ ガス管の耐震化率 (%)	96.4	97.6	97.8				98.0	-	A

グラフ	①		評価結果 B 概ね良好
	②		
	③		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
災害に強いまちづくりができていると思う人の割合	15.3	19.7	19.6				a 良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。近年は豪雨などによる被害も各地で発生しており、ハード面の整備についての関心が高まっている。

5. 施策評価

Ba

4. 指標の分析

成果指標	①	計画に従い、耐震管への布設替え工事を着実に進めることができたため、前年度実績値から0.5ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	耐震に関する計画を包括した橋梁保全に関する全体計画を策定した後に事業を進めていく予定であるため、基準値と変わらず横ばいであり、目標値に向けて低調に推移している。
	③	最近、多くの災害が発生しているので、ガス管の災害対策を進めた結果、前年度実績値から0.2ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	基準値との比較において、インフラ施設の災害対策を進めたことにより、4.3ポイント上昇している。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓				Ba
D				
		d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離 なし				

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
災害時の交通路等の確保	木曽川河川敷公園整備事業	公園緑地課	○	★★	-
	緑道整備事業	公園緑地課	○	★★★★	-
	幹線道路整備事業(福塚線)	道路課	○	★★★★	-
	幹線道路整備事業(今伊勢北方線)	道路課	○	★★	-
	橋梁保全事業	道路課	○	★★★★	-
	下水道管改良事業	下水道整備課	○	★★★★	-
災害時の飲料水の確保	水道施設長寿命化計画策定事業	計画調整課	○	★★★★	-
	水道管改良事業(基幹管路)	上水道整備課	○	★★	-
	水道管改良事業(応急給水栓)	上水道整備課	○	★★★★	-
	佐千原浄水場第2ポンプ棟建設事業	施設保全課	○	★★★★	-
公共建築物および避難所の整備	公共建築物耐震化事業	危機管理課	○	★★★★	-
	防災施設充実強化事業	危機管理課	○	★★★★	-
	公園・緑地整備事業	公園緑地課	○	★★★★	-
浸水被害の軽減	総合治水対策事業(河川改修)	治水課	○	★★	-
	総合治水対策事業(流域貯留施設等)	治水課	○	★★★★	-
	総合治水対策事業(河川等情報関連)	治水課	○	★★★★	-
	総合治水対策事業(洪水ハザードマップ)	治水課	○	★★★★	-
	緊急農地防災事業	治水課	○	★★★★	-
	県営農業農村整備事業(排水路・排水機場)	治水課	○	★	-
	生活関連治水事業	治水課	○	★★	-
	公共下水道雨水管渠整備事業	下水道整備課	○	★★	-

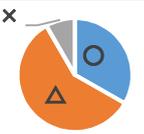
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

成果指標は概ね良好に推移しており、各種の事業を引き続き推進し改善していく。なお、主要橋梁の耐震化率については、横ばいであるものの、市内管理道路にわたる橋梁は法令に基づく点検・診断を行い、その結果に基づく措置を行っていることにより常時良好な状態としている。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	△ 変わらない	
	○ 良くなっている	33.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・まちを歩いて危険箇所を把握し、家族や地域で共有する。 ・防災マップを見る習慣をつけ、避難所を把握しておく。
	△ 変わらない	58.4%	
	× 悪くなっている	8.3%	

主担当部・課

総合政策部 危機管理課

関係課

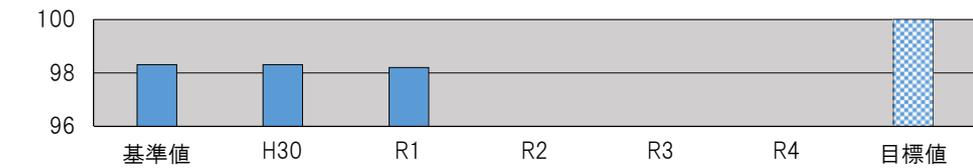
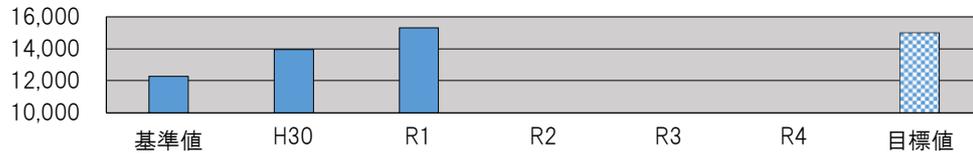
農業振興課、公園緑地課、道路課、治水課、計画調整課、上水道整備課、下水道整備課、施設保全課

Plan 3 安全・安心を高める

施策15 自主防災力の向上を図ります

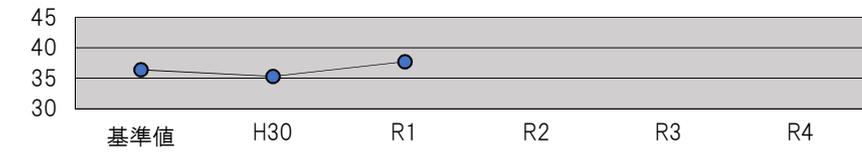
1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 自主防災会の結成率 (%)	98.3	98.3	98.2				100	-	D
② あんしん・防災ねっと登録件数および一宮市防災ツイッターフォロワー数 (件)	12,262	13,945	15,308				15,000	-	A

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
地震や風水害の備えができていると思う人の割合	36.4	35.3	37.7				b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。
- ・近年は豪雨などによる被害も各地で発生しており、防災についての関心が高まっている。
- ・町内会、連区、企業では、防災訓練や防災教室など防災教育が行われている。

4. 指標の分析

成果指標	①	自主防災会は、100%に近い高い割合の町内会で結成されており、今年度は前年度から0.1ポイント減少したことにより基準値を下回ったものの、未結成の町内会数は横ばいである。
	②	あんしん・防災ねっとのリニューアルや積極的なPRを行ったため、前年度実績値から1,363件増加しており、目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Cb		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

5. 施策評価

Cb

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
防災意識の高揚	防災訓練事業	危機管理課	○	★★	-
	防災啓発事業	危機管理課	○	★★	-
	総合的な防災ハンドブックの活用事業	危機管理課	○	★★	-
地域防災力の向上	自主防災組織育成事業	危機管理課	○	★★	-
	災害時たすけあい隊（災害時要援護者支援事業）	福祉課	○	★★	-
	災害時たすけあい隊（災害時要援護者支援事業）	高年福祉課	○	★★	-
災害時の情報提供	防災情報伝達事業	危機管理課	○	★★	-
	たすけあい避難名簿（避難行動要支援者名簿）管理事業	福祉課	○	★★	-

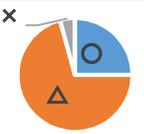
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

自主防災会は高い割合で結成され、防災訓練や防災講話等の活発な自主防災活動が行われている。
 あんしん・防災ねっとおよびツイッターをはじめ自主防災意識の向上のため各種事業の積極的な啓発を行い、主要な事業を引き続き推進していく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	評価	割合	
○	良くなっている	25.0%	・自助の意識を高め、防災訓練に積極的に取り組む。 ・あんしん・防災ねっとの登録や、防災ツイッターのフォローをする。
△	変わらない	70.8%	
×	悪くなっている	4.2%	

主担当部・課
総合政策部 危機管理課

関係課
福祉課、高年福祉課

Plan 3 安全・安心を高める

施策16 火災や救急に対する体制の強化を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 消火・消防訓練実施率（町内会単位）（％）	72.0	80.8	80.1				80.0	-	A
② 応急手当の実施率（％）	67.2	73.4	71.6				75.0	-	A

グラフ	①		評価結果 A 良好
	②		

2. 市民の体感指標による評価（アンケート調査）

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
消防・救急体制が整っていると思う人の割合	48.2	54.2	54.0				a 良好

グラフ		評価結果 a 良好

3. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

・近年、頻発する大規模自然災害の影響により、市民や事業所等の防災に係る自助、共助意識が高揚傾向にある。
 ・救急出動件数は増加傾向にあり、病院前救護体制の充実が求められている。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

成果指標	①	前年度実績値から0.7ポイント低下しているものの、市民の防災意識は高揚傾向にあり、引き続き目標値を達成している。
	②	前年度の数値（73.4％）は過去10年間の最高値であり、令和元年度は前年度実績値から1.8ポイント低下しているものの、引き続き高い水準にあり、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		基準値との比較において、市民等の防災および応急手当の意識向上により、5.8ポイント上昇している。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

			Aa
A ↑ 成果指標			
D ↓ 成果指標			
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

Plan 3 安全・安心を高める

施策17 交通事故を減らす取組を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 交通事故による死者数(人)	14	12	7				8	-	A
② 交通事故による負傷者数(人)	2,816	2,679	2,510				2,200	-	A
③ 運転免許証を自主返納した高齢者数(人)	489	1,022	1,005				1,000	-	A

グラフ	評価結果
	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p style="text-align: center;">良好</p>

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
交通事故の危険を感じたことがある人の割合	72.8	73.6	71.5				<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">b</p> <p style="text-align: center;">概ね良好</p>

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・愛知県は平成15年以降、16年連続で交通死亡事故の発生件数が全国最多となっており、極めて厳しい状況が続いている。
- ・愛知県は自動車の保有台数が全国1位ということもあるが、交通ルールを守らないために発生する事故が多いという実状がある。
- ・愛知県における交通事故死者数のうち、高齢者の被害者が半数以上を占めており、その中でも歩行中、自転車乗車中の道路横断中の事故が多発している。

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、交通安全教育の普及等を行ったため、前年度実績値から5人減少(改善)しており、目標値を達成している。
	②	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、交通安全教育の普及等を行ったため、前年度実績値から169人減少(改善)しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	前年度実績値から17人減少(悪化)しているものの、i-バス回数券等・交通安全啓発品の配付などの支援を行ったことや、支援事業の周知を行ったことにより、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A		Ab	
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離 なし			

5. 施策評価

Ab

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Plan 3 安全・安心を高める

施策18 防犯対策を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 犯罪発生件数（件）	3,741	3,139	2,390				3,000	-	A
② 町内会等が設置した防犯カメラの台数（台）	322	506	600				710	-	A
③ 自主防犯パトロール隊の結成数（団体）	136	140	147				160	-	A

グラフ	①	②	③
①			

評価結果	A 良好
------	----------------

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
	H30	R1	R2	R3	R4		
犯罪への不安を感じたことがある人の割合	60.7	60.3	58.5				b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・愛知県の刑法犯認知件数は県民・警察・行政が一体となった取組を推進したこと等により、平成15年のピーク時に比べ平成30年には4分の1以下まで減少している。
 ・一宮市の刑法犯認知件数も地域住民・警察・行政の取組や協力等により、平成16年のピーク時から減少し、平成30年には4分の1以下となっている。しかしながら本市は県内の警察署別での認知件数が、毎年ワーストランキングの上位となっており、この要因として、高速道路のインターチェンジや鉄道といった交通機関が利用しやすいことに加え、住宅、自転車等にカギを掛ける習慣がない市民が多くいることが考えられる。

4. 指標の分析

成果指標	①	警察、地域住民および各種団体等と連携した啓発活動や、地域防犯教育の普及等を行ったため、前年度実績値から749件減少しており、目標値を達成している。
	②	町内会等が行った防犯カメラの設置費用の一部補助や、防犯カメラの維持費の定額補助、補助事業の周知を行ったため、前年度実績値から94台上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	自主防犯パトロール隊に登録した個人、団体へ防犯資器材等の貸与や研修会の実施、事業の周知を行ったため、前年度実績値から7団体増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			Ab	
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Ab

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Plan 4 活力を生み出す

施策19 既存産業や次世代産業の育成を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 中小企業振興融資の助成件数（件）	611	663	637				670	-	A
② 法人数（事業所）	8,550	8,672	8,746				9,000	-	A
③ 奨励金を交付した企業の新增設の累積件数（事業所）	36	54	63				40	-	A

グラフ	評価結果
	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">良好</p>

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市の企業は活力があると思う人の割合	7.3	9.3	9.9				<p style="font-size: 2em; text-align: center;">b</p> <p style="text-align: center;">概ね良好</p>
グラフ							

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・内閣府発表の日本経済の現状によると、平成24年12月からの景気回復期間は、戦後2位のいざなぎ景気を超える長さとなった可能性が高いとしている。
- ・景気回復期間が長期化することで、就業者数が134万人増加している。
- ・保育の受け皿拡大等により、女性の就業者が87万人増加したことに加え、若者の失業率が3.4%と低水準となっている。
- ・景気回復期の長期化により、企業の設備投資が徐々に拡大している。
- ・災害復興やオリンピックにより、建築・建設等の需要が増え、景気回復の後押しをしている。

4. 指標の分析

成果指標	①	利子補給を廃止したため、助成件数が26件減少しているものの、目標値に向けて良好に推移している。
	②	景気回復期の長期化により、新たに本市内に進出・企業する事業所が増えたため、前年度実績値から74事業所増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	景気回復期の長期化により、企業の設備投資が徐々に拡大しているため、前年度実績値から9事業所増加しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	
	d	a
A		Ab
D		
成果指標と体感指標の乖離		
なし		

5. 施策評価

Ab

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
地場産業の持続的な発展	ジャパン・テキスタイル・コンテスト事業	商工観光課	○	★★	-
	FDC尾州モノづくり・プロモーション支援事業	商工観光課	○	★★	-
	(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター運営負担金交付事業	商工観光課	○	★★★★	-
	繊維振興学生視察事業	商工観光課	○	★★★★	-
	尾州産地ブランド発信事業	商工観光課	○	★★	-
各種事業所への支援と育成	いちのみや応援基金推進事業	行政課	○	★★	-
	商工団体等事業費補助事業	商工観光課	○	★★	-
	特許及び実用新案出願支援事業	商工観光課	○	★	-
	創業支援等事業	商工観光課	○	★★	-
	小規模企業等振興資金融資制度等預託金事業	商工観光課	○	★★★★	-
	中小企業振興融資信用保証料補助事業	商工観光課	○	★★★★	-
	中小企業振興融資利子補給補助事業	商工観光課	○	★★	-
	中小企業相談所補助事業	商工観光課	○	★★	-
	地域経済活性化婚活支援事業	商工観光課	○	★★	-
	企業立地促進事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	企業立地の促進に関する調整事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
産業の多角化	企業立地促進事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	次世代産業育成支援事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	ビジネス特区推進事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	企業立地の促進に関する調整事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	競輪場跡地利用事業	企業立地推進課	○	★★★★	-
	企業立地関連道路整備事業	道路課	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

消費税率の引上げの影響は懸念されるが、引き続き事業を推進していく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	評価	割合	
○ 良くなっている	80.0%	・一宮市で作られた製品を購入する。 ・一宮市の繊維産業に触れ、尾州ブランドを皆で育てる。	
△ 変わらない	8.0%		
× 悪くなっている	12.0%		

主担当部・課

経済部 商工観光課

関係課

行政課、企業立地推進課、道路課

Plan 4 活力を生み出す

施策20 意欲を持って働けるよう就労支援を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 就職支援フェア来場人数 (人)	120	153	225				150	-	A
② 離職者職業訓練の助成件数 (件)	140	90	97				170	-	D
③ 市内の企業で働いている60歳以上の高齢者の割合 (%)	18.1	14.8	17.0				22.0	-	D

グラフ	評価結果
	<p>C 低調</p>

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
就労支援を必要とする人への支援がなされていると思う人の割合	10.5	14.7	9.4				<p>b 概ね良好</p>
グラフ							

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 景気回復期間が長期化することで、就業者数が134万人増加している。
- ・ 保育の受け皿拡大等により、女性の就業者が87万人増加したことに加え、若者の失業率が3.4%と平成4年以来の低水準となっている。
- ・ 厚生労働省の発表によると、平成31年3月大学等卒業者の就職状況の調査では、大学生の就職率は97.6%と9年の調査開始後2番目に高く、引き続き高水準となった。
- ・ 平成28年労働力調査によると、高齢者の就職意欲は高いが、非正規の職員・従業員への就職割合が最も高くなっている。

4. 指標の分析

成果指標	①	景気回復等により中小企業の求人が増加し、また、より良い就職先を求める就職希望者も増加しているため、前年度実績値から72人増加しており、引き続き目標値を達成している。
	②	前年度実績値から7件増加しているものの、管内の有効求人倍率が高く求職者数が少ない状況が継続しているため、引き続き基準値を下回り目標値から乖離している。
	③	管内の求人倍率が高い状況にあるため、前年度実績値から2.2ポイント上昇しているものの、労働条件のアンマッチが特に高齢者において顕著なため、依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓			Cb	
D				
	d	← 体感指標 →	a	
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

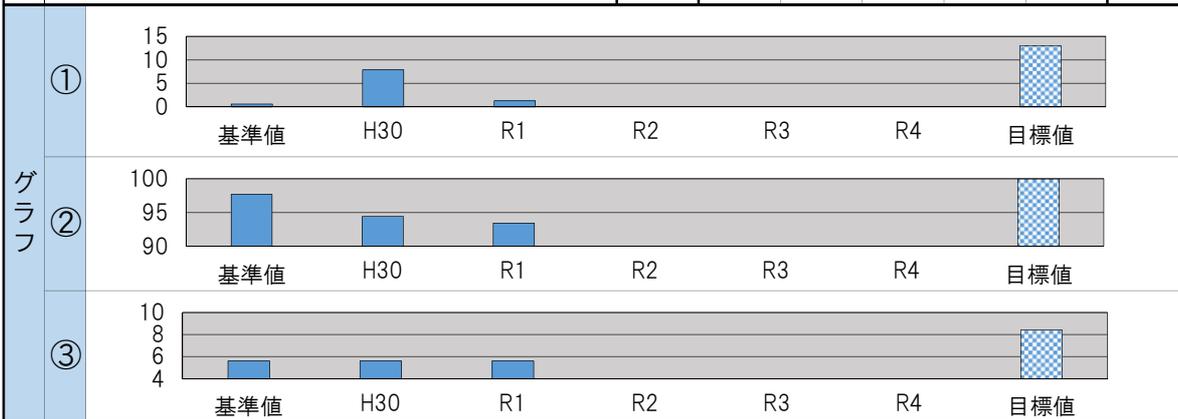
Cb

Plan 4 活力を生み出す

施策21 女性の活躍できる環境をつくります

1. 成果指標による評価

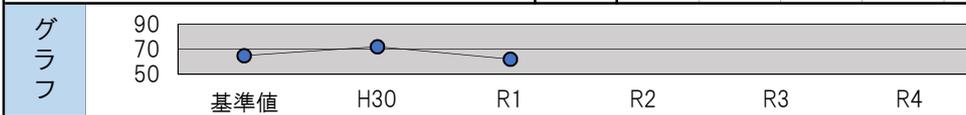
成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 育児休業取得率（男性）（％）	0.6	7.9	1.3				13.0	-	C
② 育児休業取得率（女性）（％）	97.7	94.4	93.4				100	-	D
③ 就職を希望する女性の就職率（％）	5.6	5.6	5.6				8.4	-	C



評価結果
C
低調

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
男女差なく働けると感じている人の割合	65.0	72.1	62.2				C 低調



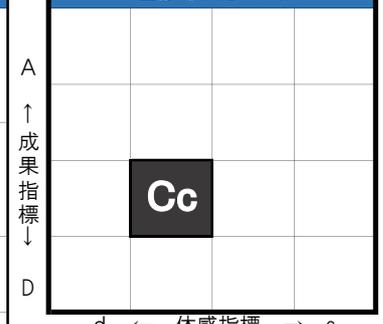
3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・女性の就業率（15～64歳）は平成18～28年の10年間に、58.8%から66.0%と7.2ポイント上昇しており、共働き世帯数も年々増加している（総務省「労働力調査」より）。
- ・平成27年8月に「女性活躍推進法」が成立し、女性の活躍に対する機運が高まってきている。
- ・長時間労働の是正を始めとした「働き方改革」や平成29年10月に改正された「育児・介護休業法」等により、仕事と家庭の両立支援が求められている。

4. 指標の分析

成果指標	①	男性の育児休業取得に関する職場環境が改善されつつあるが、育児休業制度の規定は事業所規模が小さいほど未整備な傾向にあり、中小企業の多い本市では安定して高い水準とはならず、前年度実績値からは6.6ポイント低下しており、目標値に向けて低調に推移している。
	②	女性の育児休業取得に関する職場環境はある程度高い水準にあるが、中小企業の多い本市では人手不足により多忙で取りづらいということが育児休業取得率低下の要因だと考えられ、前年度より1.0ポイント低下した。依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
	③	保育施設の充実等、子育てをしながら再就職を希望する方に対する環境は徐々に整いつつあるが、前年度実績値から変わらず横ばいであり、目標値に向けて低調に推移している。
市民の体感指標		前年度実績値との比較において、女性は非正規雇用労働者の割合が多く、待遇や昇格等に男女による扱いの差を感じる等の理由により、9.1ポイント低下したと考えられる。また、基準値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には低調に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス



成果指標と体感指標の乖離
なし

5. 施策評価
Cc

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果			
			必要性	有効性	効率性	
女性のチャレンジ支援	女性再就職応援セミナー開催事業	政策課	○	★★★	-	
ワーク・ライフ・バランスの推進	男女共同参画情報紙発行事業	政策課	○	★★★	-	
	認知症介護家族支援事業	高年福祉課	○	★★	-	
	介護基盤の整備事業	介護保険課	○	★★★	-	
	放課後児童健全育成事業	子育て支援課	○	★★★	-	
	ファミリー・サポート・センター事業	子育て支援課	○	★★	-	
	保育園の施設整備事業	保育課	○	★★★	-	
	私立保育園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★	-	
	認定こども園の運営・整備助成事業	保育課	○	★★★	-	
	保育事業	保育課	○	★★	-	
	特別保育事業(延長保育)	保育課	○	★★★	-	
	特別保育事業(乳児保育)	保育課	○	★★	-	
	特別保育事業(休日保育)	保育課	○	★★★	-	
	特別保育事業(病児・病後児保育)	保育課	○	★★★	-	
	特別保育事業(障害児保育)	保育課	○	★★★	-	
	小規模保育改修費等支援補助事業	保育課	○	★★★	-	
	小規模保育事業運営補助事業	保育課	○	★★★	-	
	放課後子ども教室事業	青少年育成課	○	★★	-	
	事業所内保育施設の整備に対する助成事業	商工観光課	○	★★	-	

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

成果指標と市民の体感指標のいずれもが低調に推移している。各種の事業を引き続き推進していく中で、特に女性の就職率に関連して、市が開催する女性再就職応援セミナーの内容を検討する等、セミナー参加者がより多く就職できるようにすることで指標数値を改善していく。また、市民の体感指標については、女性の活躍推進に関する記事を男女共同参画情報紙「いーぶん」に掲載するなど啓発事業を引き続き推進していく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	△ 変わらない	
	12.5%	75.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てや家事は皆でやるものという意識を持つ。 ・できるだけ残業時間を減らし、子育てや家事に参加できる時間を確保する。
	12.5%		

主担当部・課
総合政策部 政策課

関係課
高年福祉課、介護保険課、子育て支援課 保育課、青少年育成課、商工観光課

Plan 4 活力を生み出す

施策22 魅力があり持続的発展性のある農業を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 新規就農者数(人)	13	12	14				15	-	A
② 農地の集積率(%)	8.7	7.5	8.5				11.2	-	D

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市内の農産物に愛着を感じている人の割合	53.2	55.4	57.7				b 概ね良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・水田地帯では、機械の更新により省力化を図ることで経営体の規模を拡大している。
- ・多くの初期投資が必要な稲作での新規参入は難しく、また、畑作(野菜)での参入においても、まとまった農地が少ないことから園芸施設を利用するなど、面積あたりの収益率を高める必要があり新規参入は限定される。
- ・国による各種支援策については、農村地帯や中山間地に主眼を置いたものが多く都市近郊の比較的小規模の農業は置き去りになっている。
- ・安価な海外農産物の流入が、国産農産物の市場に影響を与えている。
- ・農村地域の人口減少と高齢化が進み、食料自給率の低迷に拍車をかけている。

4. 指標の分析

成果指標	①	農業塾卒塾生や家族後継者の就農により、前年度実績値から2人増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	②	小規模農家の離農が進んでいるため、前年度実績値から1.0ポイント上昇したものの、農地中間管理機構での貸借が10年間と長期なこと、手続きが煩雑なことなどのため、依然として基準値を下回る水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			
			Cb
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離			なし

5. 施策評価

Cb

Plan 4 活力を生み出す

施策23 幹線道路の整備を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 市（周辺部）の都市計画道路の整備割合（％）	53.3	53.6	53.8				54.9	-	B

グラフ								評価結果
								B 概ね良好

2. 市民の体感指標による評価（アンケート調査）

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
幹線道路が整備されていると思う人の割合	55.6	57.1	59.0				b 概ね良好

グラフ							評価結果

3. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

・全国的に自然災害が多発しており、災害時の迅速な救援活動や物資の運搬、その後の復旧に欠かせない緊急輸送道路のネットワーク強化が求められている。
 ・児童や園児の痛ましい交通事故が相次いでおり、歩行者が安全に安心して通行できる道路交通環境の整備が求められている。
 ・道路ストックの老朽化が深刻になっており、定期的な点検による補修など効率的な道路管理が課題となっている。

5. 施策評価

Bb

4. 指標の分析

成果指標	当初計画通り事業の進捗が図れたため、前年度実績値から0.2ポイント上昇しており、目標値に向けて概ね良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

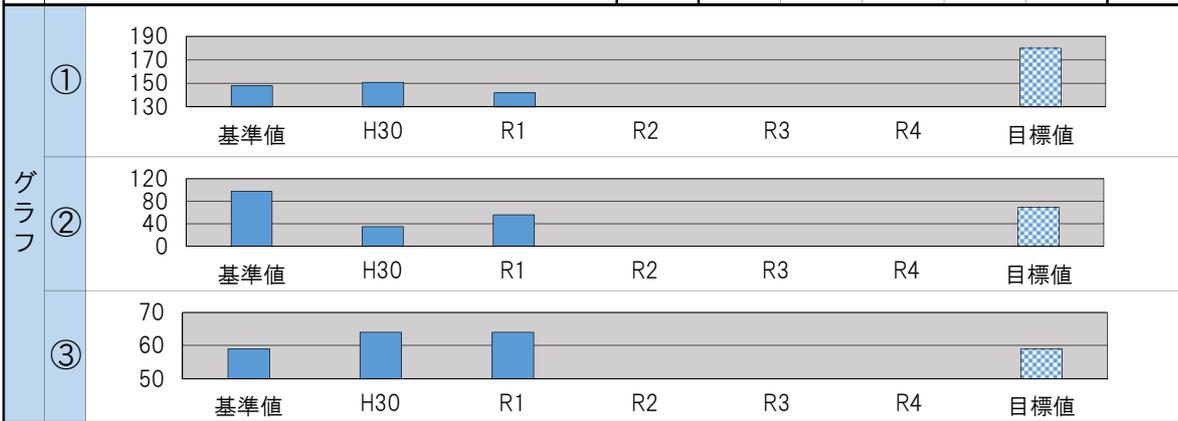
A				
↑			Bb	
成果指標				
↓				
D				
d				
成果指標と体感指標の乖離 なし				

Plan 5 未来の人財を育てる

施策24 子どもから青少年まで健全に育つ環境をつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 子ども・若者総合相談窓口の相談者数(人)	148	151	142				180	-	D
② 初発型非行の検挙人数(人)	98	35	56				70	-	A
③ 子ども会事業の実施数(回)	59	64	64				59	-	A



評価結果
B
概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
子どもが社会性を身につけていると思う人の割合	62.9	56.0	60.0				b 概ね良好



3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・市民のライフスタイルや価値観の多様化、プライバシー意識の高まりなどにより、地域のつながりが希薄化し、地域の子どもの育てる力が低下している。
- ・スマートフォンやインターネット等の普及により簡単に有害な情報を手に入れられるようになり、見知らぬ他人との接触機会が生じるなど、未成年の非行や犯罪被害に多大な影響を及ぼしている。
- ・核家族化に少子化、疑似体験などの高度な情報化、SNSなどのコミュニケーションツールの浸透により、子どもたちが実際の体験活動を通して他者との交流を深める機会が少なくなっている。

4. 指標の分析

成果指標	①	各学校におけるスクールソーシャルワーカーが充実し、小中学生の相談が減少したため、前年度実績値から9人減少し、基準値を下回る水準まで悪化している。
	②	前年度の数値(35人)は過去10年間の最小値であり、今年度は前年度実績値から21人増加(悪化)しているものの、地域や学校、警察と連携した市民運動や啓発活動が浸透しているため、引き続き目標値を達成している。
	③	計画的な定例会の実施や各種事業への継続的な参加により、前年度実績値を維持しており、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

成果指標	体感指標	
	d	a
A		
↑		Bb
↓		
D		
成果指標と体感指標の乖離 なし		

5. 施策評価

Bb

Plan5 未来の人財を育てる

施策25 学校教育施設を整備します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① トイレの洋式化率が50%以上の学校の割合 (%)	67.2	91.8	91.8				100	-	A
② 屋内運動場等の大規模空間における非構造部材の耐震化が完了した学校の割合 (%)	19.7	63.9	78.7				100	-	A

グラフ	①		評価結果 A 良好
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
学校の施設が快適だと思う小・中学生の割合	66.7	72.4	78.5				a 良好

グラフ		評価結果 a 良好
-----	--	------------------------

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・家庭において洋式トイレが主流になっている現状を踏まえ、洋式化率の向上が強く求められている。
- ・災害発生時に備え、文部科学省より非構造部材の耐震化の早期完了を求められている。
- ・近年の猛暑などから、名古屋市をはじめ県内他市町村においても空調設備の整備が進んでいる。
- ・学校施設について、効率的な老築化対策による長寿命化の推進が求められている。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

成果指標	①	非構造部材の耐震化を優先したため、前年度実績値から横ばいであるものの、目標値に向けて良好に推移している。
	②	中学校9校の屋内運動場において非構造部材の耐震化を実施したため、前年度実績値から14.8ポイント上昇しており、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標		学校施設の整備の推進により、前年度実績値との比較、基準値との比較において、学校の施設が快適だと思う小・中学生の割合は、それぞれ6.1ポイント、11.8ポイント上昇し、良好に推移している。

6. 進捗状況マトリクス

			Aa
A			
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし			

Plan 5 未来の人財を育てる

施策26 特色ある教育活動を実施します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① プログラミング教育の実施校数（校）	21	35	35				61	-	B
② 教員の情報機器活用研修の履修率（%）	75.0	75.0	76.8				85.0	-	C
③ 英語テストで8割以上正解できた児童の割合（%）	73.2	79.3	78.5				80.0	-	A

グラフ	①		評価結果 B 概ね良好
	②		
	③		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標（%）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
特色ある教育活動が行われていると思う人の割合	36.0	40.0	40.9				b 概ね良好

グラフ		評価結果 b 概ね良好
-----	--	--------------------------

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・次期学習指導要領において、小学校でのプログラミング教育の必修化など情報教育のより一層の充実が求められている。また、情報活用能力が言語能力等と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけられたため、教職員も教育の情報化に対応していく必要がある。
 ・学習指導要領の改訂により、小学校では令和2年度から5、6年生において外国語活動が教科として全面実施されるなど、英語学習の必要性が年々高まっている。

5. 施策評価

Bb

4. 指標の分析

成果指標	①	今年度は新学習指導要領完全実施の前のため、前年度実績値と変わらず横ばいであるものの、目標値に向けては概ね良好に推移している。
	②	夏季研修や校内研修を行ったため、前年度実績値から1.8ポイント上昇しているものの、目標値に向けては低調に推移している。
	③	前年度実績値から0.8ポイント低下しているものの、平成21年度より教育課程特例校の指定を受け、英語活動を継続してきたため、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 D ↓				
			Bb	
		d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離 なし				

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
未来に生きる力の育成	正確かつ必要な情報通信技術(ICT)獲得のための教育の充実事業	学校教育課	○	★★★	-
	英会話指導講師・英語指導講師派遣事業	学校教育課	○	★★★	-
家庭・地域社会・学校の連携強化	学校運営協議会の充実事業	学校教育課	○	★★★	-
	魅力あふれる学校づくり推進事業	学校教育課	○	★★	-
教員の指導力の向上	訪問研修アドバイザー派遣事業	学校教育課	○	★★	-
	ステップアップ研修事業	学校教育課	○	★★	-
	学校支援アドバイザー事業	学校教育課	○	★★★	-
笑顔で登校できる学級・学校づくり	不登校対策推進事業	学校教育課	○	★★	-
	いじめ対策推進事業	学校教育課	○	★★★	-
	学級生活調査委託事業	学校教育課	○	★★	-
	心の教室相談員配置事業	学校教育課	○	★★	-
	一宮市スクールカウンセラー配置事業	学校教育課	○	★★★	-
	スクールソーシャルワーカー配置事業	学校教育課	○	★★★	-
	教育支援センター運営事業	学校教育課	○	★★	-
	ピアサポート推進事業	学校教育課	○	★★★	-

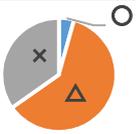
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

小学校では新学習指導要領が来年度から完全実施になるため、プログラミング教育は必修となり、小学校英語も教科化となる。目標値達成に向けて、引き続き各事業を推進していく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
○	良くなっている	4.3%	・学校の先生が困っていることを知り、できることを協力する。 ・知識や経験を生かして学校教育支援ボランティアに参加する。
△	変わらない	60.9%	
×	悪くなっている	34.8%	

主担当部・課
教育文化部 学校教育課

関係課
青少年育成課

Plan 5 未来の人財を育てる

施策27 する・みる・ささえるスポーツ活動を支援します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① スポーツ活動をする市民の数(万人)	254.2	250.2	265.9				260	-	A
② スポーツ指導者およびスポーツボランティア登録者数(人)	3,000	3,725	3,413				3,200	-	A

グラフ	①		評価結果 A 良好
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
	H30	R1	R2	R3	R4		
スポーツに親しむ機会が多くあると思う人の割合	21.5	24.3	27.1				a 良好

グラフ		評価結果 a 良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・平成27年10月に国民の健康増進を目的にスポーツ庁が設置され、子どもの体力向上、国民のスポーツライフ、競技力の向上などスポーツ振興に取り組んでいる。
 ・令和2年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、スポーツへの関心は年々高まっており、大会に向けた選手の強化を目指している。

5. 施策評価

Aa

4. 指標の分析

成果指標	①	施設利用者をスポーツ活動をする人の指標としており、平成30年8月に全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会が開催されたことなどから、前年度実績値から15.7万人増加しており、目標値を達成している。
	②	審判技術、指導技術の講習等受講者が、前年度実績値から312人減少しているものの、引き続き目標値を達成している。
市民の体感指標	基準値との比較において、スポーツへの関心の高まりから5.6ポイント上昇している。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			Aa
d ← 体感指標 → a			
成果指標と体感指標の乖離 なし			

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
競技スポーツの推進	いちのみやタワーパークマラソン事業	スポーツ課	○	★★	-
	学校体育施設開放事業	スポーツ課	○	★★	-
	市民大会開催事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	スポーツの普及・選手育成事業	スポーツ課	○	★★	-
	体育施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	スポーツ施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	指定管理施設整備事業	教育指定管理課	○	★★★★	-
生涯スポーツの推進	すこやか健康づくり公園整備事業	公園緑地課	○	★★★★	-
	生涯スポーツ振興事業	スポーツ課	○	★★	-
	地域スポーツ振興事業	スポーツ課	○	★★	-
	いちのみやタワーパークマラソン事業	スポーツ課	○	★★	-
	学校体育施設開放事業	スポーツ課	○	★★	-
	ウォーキング講習会開催事業	スポーツ課	○	★★	-
	体育施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	スポーツ施設整備事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	指定管理施設整備事業	教育指定管理課	○	★★★★	-
各種スポーツ大会などの観戦の推進	広域スポーツ大会運営補助事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	ビッグプロジェクト等誘致推進事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	関西・一宮セブンズラグビーフットボール事業	スポーツ課	○	★★★★	-
指導者の確保	スポーツ指導者養成事業	スポーツ課	○	★★★★	-
	スポーツ推進委員研修事業	スポーツ課	○	★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

今後も「する・みる・ささえる」スポーツ活動を普及するため、より市民が参加しやすく楽しんでもらえるよう各事業を推進していくとともに、トップレベルの大会等を誘致できるよう努めていく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	評価	割合	
○	良くなっている	13.6%	・町内の運動会に参加したり、子ども達のクラブ活動をボランティアとして指導したりして、地域ぐるみでスポーツに取り組む。 ・運動の良さを認識し、自分に合ったスポーツを親しむ。
△	変わらない	50.0%	
×	悪くなっている	36.4%	

主担当部・課

教育文化部 スポーツ課

関係課

公園緑地課、教育指定管理課

Plan 5 未来の人財を育てる

施策28 歴史・文化に親しめる環境を整えます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 無形文化財・無形民俗文化財の保存を担っている人の数(人)	1,084	1,082	1,074				1,084	-	B
② 博物館等の入館者数および催事参加者数(人)	144,512	149,181	132,035				159,000	-	D

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標(%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市の歴史や文化に親しむ機会があると思う人の割合	18.4	20.1	19.9				b 概ね良好

グラフ		評価結果 b 概ね良好
-----	--	--------------------------

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

・平成29年の共同通信の調査によると、都道府県が無形民俗文化財に指定した伝統行事のうち、継続が難しくなり休廃止されたものが20県で60件に上り、その背景として、過疎や少子化、若者の都市部への流出などによる担い手の減少があるといわれる。
 ・平成31年4月施行の文化財保護法の改正により、国指定の文化財について、保護・保存だけでなく、地域での継承につなげるような活用との両立が求められるようになった。

5. 施策評価

Cb

4. 指標の分析

成果指標	① 担い手の少子高齢化のため、前年度実績値から8人減少しており、目標値をわずかに維持できなかった。
	② 博物館の空調設備更新工事や尾西歴史民俗資料館の別館耐震補強工事・本館展示更新工事による長期にわたる臨時休館のため、前年度実績値から17,146人減少し、基準値を下回る水準まで悪化している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Cb		
	d	←	体感指標	→	a
成果指標と体感指標の乖離 なし					

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある催事の企画とPRの推進	一宮市美術展等開催事業	生涯学習課	○	★★	-
	文化団体への各種事業委託事業	生涯学習課	○	★★	-
	民俗芸能発表会事業	生涯学習課	○	★★	-
	博物館展示事業	博物館事務局	○	★★	-
	博物館管理事業	博物館事務局	○	★★	-
	博物館空調改修事業	博物館事務局	○	★★★★	-
	歴史民俗資料館展示事業	博物館事務局	○	★★★★	-
	歴史民俗資料館管理事業	博物館事務局	○	★★★★	-
	美術館展示事業	博物館事務局	○	★★★★	-
	美術館管理事業	博物館事務局	○	★★	-
	生涯学習出前講座事業	博物館事務局	○	★★	-
文化財の計画的な維持管理	指定文化財管理事業	博物館事務局	○	★★★★	-
	文化財保護補助事業	博物館事務局	○	★★★★	-
	民俗芸能伝承推進事業	博物館事務局	○	★★	-
	民俗芸能伝承保存補助事業	博物館事務局	○	★★★★	-

8. 大幅な見直しを行う事業(7. の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

無形文化財・無形民俗文化財の保存を担っている人の数を現状維持から増加に結び付けることは、少子高齢化の状況下では難しい課題であるが、新しく住民になった方々にも参加いただくなどの各保存会での取組をサポートし、補助金の交付や今後の継承の拠り所となる活動を継続していきたい。博物館等の施設設備の老朽化による更新工事などでの臨時休館は、施設を長く有効に運営していくためには必要不可欠な措置である。今後もより一層地域文化発信の拠点として、資料の収集・整理・保存・研究と展示会や講座やワークショップなどの教育普及を充実させていく。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
○	良くなっている	4.4%	・博物館などの施設を利用し、歴史や文化に親しむ。 ・SNSを活用して市のイベント等をPRする。
△	変わらない	82.6%	
×	悪くなっている	13.0%	

主担当部・課
教育文化部 博物館事務局

関係課
生涯学習課

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Management 1

人を呼び込む ～シティプロモーション～

施策 1

子育て世代に選ばれるまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 直近5年間の人口の社会増減累計（人）	985	1,803	1,869				2,170	-	A
② 若年層の人口構成比（％）	16.8	16.0	15.7				16.0	-	D

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価（アンケート調査）

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市は子育てするのに適したまちだと思う人の割合	46.1	49.6	46.6				b 概ね良好

グラフ		評価結果 b 概ね良好

3. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

- ・日本の総人口は平成20年をピークに減少しているが、愛知県の人口は、平成28年より自然増減が減少に転じたものの、社会増の状況が続いており、総人口は増加が続いている。一宮市においても、社会増が続いているが、自然減が大きく、市の人口は平成24年をピークにゆるやかな減少が続いている。
- ・全国的に若年層での東京圏の転入超過が続いており、一宮市も同様の傾向である。
- ・働き方の変化により、子育て環境の整備が求められている。
- ・全国的に移住対策を行う自治体が多く、競争は激化している。
- ・本市の基幹産業である繊維産業は、安価な輸入品の増大等の影響により規模が縮小傾向にある。

5. 施策評価

Cb

4. 指標の分析

成果指標	①	本市は名古屋都心等への交通アクセスが良く転入超過が続いたため、前年度実績値から66人増加しており、目標値に対して良好に推移している。
	②	若年層の転入人口は増えているものの、人口構成比を維持できるほどのインパクトはなく、前年度実績値から0.3ポイント低下し、目標値を維持できなかった。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D				
			Cb	
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Management 1

人を呼び込む ～シティプロモーション～

施策2

訪れてみたいまち、交流が盛んなまちをつくります

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 一宮市の認知度（位）	291	321	330				180	-	D
② 主要観光イベントの来客者数（人）	2,948,662	2,356,844	2,190,167				3,245,000	-	D

グラフ	評価結果								
	①	②	基準値	H30	R1	R2	R3	R4	目標値
①									
②									

D
悪化

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
一宮市は魅力があるまちだと思う人の割合	12.9	12.6	13.1				b 概ね良好

グラフ	基準値	H30	R1	R2	R3	R4

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・全国的に自治体によるシティプロモーション活動は激化している。
- ・138タワーパークや一宮七夕まつりなどは、全国的に知られ、知名度が高い。
- ・基準値の調査対象となる平成27年は、市長が交代した年であり、また、一宮七夕まつりが60回の記念の年を迎え”東京ディズニーリゾート・スペシャルパレード”を実施するなど、例年に比べメディアの露出が多かった。
- ・レジャーの多様化により、既存の祭りなどの来客者数は減少傾向にある。
- ・天候やSNSでの影響により来客者数は大きく左右される。

5. 施策評価

Db

4. 指標の分析

成果指標	①	ラグビーワールドカップのキャンプ地が内定するなど、認知度向上を見込んだが、順位の上昇に影響を与えるまでは至らず、前年度実績値から9位上昇(悪化)し、依然として基準値より高い(悪化した)水準にあり、目標値から乖離している。
	②	暴風警報などの悪天候により一部イベントが中止されたため、前年度実績値から166,677人減少している。また、基準値の調査対象となる平成27年のイベントの注目度がとても高かったため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D					
			Db		
	d	←	体感指標	→	a

成果指標と体感指標の乖離なし

7. 施策実現に向けて実施した事業(実施計画に掲載した事業)とその評価結果

事業展開の方向性	事業名	担当課	事業評価結果		
			必要性	有効性	効率性
魅力ある集客イベントの開催	おりもの感謝祭一宮七夕まつり事業	商工観光課	○	★★	-
	濃尾大花火事業	商工観光課	○	★★	-
	一宮イルミネーション事業	商工観光課	○	★★	-
	一宮モーニングプロジェクト事業	商工観光課	○	★★	-
	びさいまつり事業	商工観光課	○	★★	-
	萩原チンドン祭り事業	商工観光課	○	★★	-
	138タワーパークイベント事業	公園緑地課	○	★★	-
	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	公園緑地課	○	★★	-
観光情報等の発信	ウェブサイト等の運営事業	広報課	○	★★	-
	いちのみやフィルムコミッション協議会事業	商工観光課	○	★★	-
市の新しい魅力発見のための観光資源の活用	フリーWi-Fi(無料公衆無線LAN)サービス拡大事業	情報推進課	○	★★	-
	観光案内所運営事業	商工観光課	○	★★	-
	観光協会ウェブサイト事業	商工観光課	○	★★★★	-
	イベント実施団体等への補助事業	商工観光課	○	★★	-
	いちのみや物産展開催事業	商工観光課	○	★★	-
	ミズベリング138事業	公園緑地課	○	★★	-

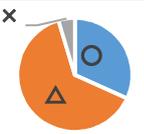
8. 大幅な見直しを行う事業(7.の「必要性」欄が「要検討」の事業)

事業名	見直しの内容

9. 今後の方向性・改善計画

イベントの客数は、天候により大きく左右され、近年は悪天候に見舞われたことも減少の大きな要因である。引き続き、各イベントで魅力ある企画・PRで来客数の上昇を目指す。
あわせて、市公式SNSを活用し、一宮モーニングや萩原チンドン祭りといった市の特色ある事業をアピールすることで、認知度の向上を図るとともに、イベントの集客も強化する。

10. 総合計画ワークショップ参加者の評価・意見

	評価結果		市民が考えた「私たちにできること」
	○ 良くなっている	31.8%	
△ 変わらない	63.6%	・七夕まつり等のイベントに参加して、気付いた魅力をPRしていく。	
× 悪くなっている	4.6%		

主担当部・課
経済部 商工観光課

関係課
広報課、政策課、情報推進課、公園緑地課

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策3 健全な財政運営に努めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 経常収支比率 (%)	85.6	89.2	90.2				85.6	-	C
② 実質公債費比率(3か年平均) (%)	3.7	3.3	3.3				3.3	-	A
③ 市税徴収率 (%)	96.0	96.2	96.9				97.0	-	A

グラフ	①		評価結果 B 概ね良好
	②		
	③		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
	H30	R1	R2	R3	R4		
市の提供するサービスで必要以上のサービスがあると思う人の割合	13.3	10.2	6.6				a 良好

グラフ	
-----	--

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・日本の経済は、平成24年11月を底に緩やかな回復基調が続いている。
- ・国の地方交付税に係る予算が平成24年度以降減少しており、さらに、合併団体においては、普通交付税の合併算定替による増額分が段階的に縮減される(本市では平成28年度から縮減を開始)。
- ・市税の徴収率は、平成21年度以降は全国的に上昇傾向にあり、滞納残高は着実に減少している。

4. 指標の分析

成果指標	①	個人市民税、固定資産税、株式譲渡等所得割交付金などの収入の伸びに比べて、扶助費、公債費、繰出金などの支出の伸びが上回ったため、前年度実績値から1.0ポイント上昇(悪化)しており、目標値以下に抑えることができなかった。
	②	合併特例債などの発行による元利償還金の増加があったものの、地方消費税交付金などの基準財政収入額の増加により前年度実績値を維持しており、目標値を達成している。
	③	現年滞納分の早期着手、債権差押や公売を強化したことにより、前年度実績値から0.7ポイント上昇しており、目標値に対して良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、市民ニーズに沿ったサービスが提供できたことにより、それぞれ3.6ポイント、6.7ポイント低下(改善)し、良好に推移している。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓				Ba
D				
		d	← 体感指標 →	a
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Ba

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策4 公共施設の適切な維持管理に努めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 公共施設の延べ床面積縮減率 (%)	0	0.1	0.8				2.3	-	B

グラフ								評価結果
								B 概ね良好

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
公共施設を不自由なく利用できている人の割合	36.8	44.3	44.6				a 良好

グラフ						

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・平成24年に発生した中央自動車道トンネルの天井板崩落事故がきっかけとなり、高度経済成長期に整備された公共施設が一斉に老朽化を迎えることに対する危機感が高まっている。
- ・平成26年4月に総務省より、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画策定の要請があり、本市では28年11月に「一宮市公共施設等総合管理計画」を策定した。
- ・今後人口減少が予測され、市税など収入の増加は見込めないことから、施設の維持・運営・管理経費の縮減と適正配置および長寿命化への対応が必要である。

5. 施策評価

Ba

4. 指標の分析

成果指標	産業体育館の解体等の要因のため、前年度実績値から0.7ポイント上昇しており、目標値に対して概ね良好に推移している。
市民の体感指標	基準値との比較において、木曽川文化会館や大和町公民館等、市民ニーズに沿った施設整備を進めたことにより、7.8ポイント上昇したと考えられる。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D			
			Ba
		d ← 体感指標 → a	
成果指標と体感指標の乖離			なし

第7次総合計画 令和元年度 施策評価シート

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策5 情報通信技術（ICT）を積極的に利活用します

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① オープンデータ公開件数（件）	60	91	101				100	-	A
② いちのみやフリーWi-Fi（無料公衆無線LAN）アクセスポイント数（か所）	86	94	96				100	-	A
③ インターネットを利用した税のクレジットカード納付件数（件）	-	-	6,300				13,200	-	A

グラフ	評価結果
①	A 良好
②	
③	

2. 市民の体感指標による評価（アンケート調査）

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
	H30	R1	R2	R3	R4		
一宮市のインターネット関連のサービスが充実していると思う人の割合	15.3	19.1	18.8				b 概ね良好

グラフ	評価結果
	b 概ね良好

3. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

・国による地方公共団体オープンデータ推進ガイドラインの改定があり、推奨データセットが公表されたため、オープンデータの利用促進が見込まれる。
 ・国においても令和2年の東京オリンピック、パラリンピックを見据え、外国人観光客等が観光・災害時に利用しやすいWi-Fi環境を実現するため、観光・防災拠点への環境整備を推進している。
 ・多様化するライフスタイルに対応した収納方法を確保することで、納税者の利便性を向上させる必要がある。

5. 施策評価

Ab

4. 指標の分析

成果指標	①	オープンデータの公開を促進した結果、前年度実績値から10件増加しており、目標値を達成している。
	②	計画的に整備を進めた結果、前年度実績値から2か所増加しており、目標値に向けて良好に推移している。
	③	令和元年度から導入しているため前年度との比較はできないが、目標値に向けて良好に推移している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A		Ab	
↑ 成果指標 ↓			
D			
	d ← 体感指標 → a		
成果指標と体感指標の乖離 なし			

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策6 適切な情報発信を行います

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 市公式ウェブサイトのアクセス件数（件）	9,864,000	9,123,780	9,666,526				11,840,000	-	D
② オープンデータ公開件数（件）	60	91	101				100	-	A

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価（アンケート調査）

市民の体感指標（％）	基準値 (H28)	実績値					評価結果
	H30	R1	R2	R3	R4		
市からの情報を適切に入手できていると思う人の割合	44.1	50.3	51.9				a 良好

グラフ		評価結果 a 良好
-----	--	------------------------

3. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

- ・インターネットの日常化により、行政情報を得る手段は、ウェブサイトによる検索が一般的になっている。
- ・若い世代を中心として、SNSを利用した積極的な情報発信が行われている。
- ・国による地方公共団体オープンデータ推進ガイドラインの改定があり、推奨データセットが公表されたため、オープンデータの利用促進が見込まれる。

4. 指標の分析

成果指標	①	ウェブサイト更新システム（CMS）を継続運用し、「より見やすく利用しやすいウェブサイト」の構築を心掛けたため、前年度実績値から約54万件増加したものの、平成28年2月のCMS導入のためのウェブサイトリニューアルで減少したアクセス件数を全て回復するには至っていないため、依然として基準値より低い水準にあり、目標値から乖離している。
	②	オープンデータの公開を促進した結果、前年度実績値から10件増加しており、目標値を達成している。
市民の体感指標		基準値との比較において、CMSの導入や、広報紙に市ウェブサイトの「ページID」を掲載するなど、情報連携を強化したため、7.8ポイント上昇したと考えられる。また、前年度実績値との比較においては、標本誤差を考慮し、総合的には良好に推移していると判断する。

6. 進捗状況マトリクス

A ↑ 成果指標 ↓ D				
				Ca
		d ←	体感指標	→ a
成果指標と体感指標の乖離なし				

5. 施策評価

Ca

Management 2 持続可能で未来につなげる

施策7 市民との協働を進めます

1. 成果指標による評価

成果指標	基準値 (H28)	実績値					目標値 (R4)	指標別評価	
		H30	R1	R2	R3	R4		対前年	対目標値
① 無作為選出制度における名簿登録者の割合 (%)	9.2	10.2	10.2				8.0	-	A
② 市民が選ぶ市民活動支援制度の選択届出率 (%)	11.5	11.7	9.4				15.0	-	D

グラフ	①		評価結果 C 低調
	②		

2. 市民の体感指標による評価(アンケート調査)

市民の体感指標 (%)	基準値 (H28)	実績値					評価結果
		H30	R1	R2	R3	R4	
市民と市が協力してまちづくりに取り組んでいると思う人の割合	19.2	20.1	20.4				b 概ね良好

グラフ		評価結果 b 概ね良好

3. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・ 少子高齢化の進展や防犯・防災など地域課題が増大・多様化し、全てを行政サービスで対応することは困難である。
- ・ 定年退職者等の「能力も時間もある市民」が増えており、彼らの地域での活躍が期待されている。
- ・ 災害支援等でボランティアやNPOの活動がますます世間に認知され、社会のために役立ちたいと考える若者や市民が増えている。

4. 指標の分析

成果指標	①	名簿の更新は2年ごとに実施しており、今回は更新を行わなかったため、前年度の実績値を引き続き当年度の実績値としている。
	②	制度実施後10年が経過し、市民の関心が薄れてきたせい、前年度実績値から2.3ポイント低下しており、基準値を下回る水準まで悪化している。
市民の体感指標	前年度実績値との比較、基準値との比較において、数値上の変動が見られるが、標本誤差を考慮して概ね良好に推移していると判断する。	

6. 進捗状況マトリクス

A				
↑ 成果指標 ↓			Cb	
D				
	d	← 体感指標 →	a	
成果指標と体感指標の乖離 なし				

5. 施策評価

Cb

参考 アンケート調査（市民の体感指標）の標本誤差について

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際はその手間や費用を考慮して適切な数を抽出し調査を行います。そのため、アンケートの回答結果に誤差が生じます。それを標本誤差といい、次の計算式によって算出できます。

なお、k は信頼率による定数で、一般的に信頼率 95%とすることが多く、その場合 k=1.96 となります。信頼率 95%とは、100 回同じ調査を行えば、95 回はその標本誤差の範囲内に収まるという意味です。

$$\text{(標本誤差)} = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団

n：有効回答数

k：信頼率による定数(※)

p：回答比率

※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、k=1.96となる。

例えば、「あなたは携帯端末を持っていますか。」というアンケート調査を、380,000 人の市民の方から無作為に 3,000 人を選んで実施して、n:有効回答数が 1,600 人、「はい」と回答した割合が 82.0%であった場合、M:380,000、p:0.82、k:1.96 を当てはめて計算すると、標本誤差は約 1.88%となります。約±1.88%の誤差を生じることとなりますので、その回答は（95%の確率で）80.12%～83.88%（82±1.88%）の範囲内となります。

(注) 同じ設問を経年的に調査するときなどは、この標本誤差を踏まえて分析する必要があります。本市の行政評価においては、市民の体感指標ごとに標本誤差を考慮した評価および分析を実施しています。